

平成26年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成26年6月16日(月曜日)

議事日程第3号

平成26年6月16日(月曜日)

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	笠原幸江君	2番	斉木勇君
3番	渡辺重雄君	4番	吉川慶一君
5番	樋口英一君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	伊藤文博君	10番	中村実君
11番	大滝豊君	12番	高澤公君
13番	田原実君	15番	吉岡静夫君
16番	新保峰孝君	17番	倉又稔君
18番	松尾徹郎君	19番	五十嵐健一郎君
20番	古畑浩一君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市	長	米田	徹	君	副	市	長	織田	義夫	君
総務	部長	金子	裕彦	君	市民	部長	吉岡	正史	君	
産業	部長	加藤	政栄	君	総務	課長	田原	秀夫	君	
企画	財政課長	斉藤	隆一	君	能生	事務所長	原	郁夫	君	
青海	事務所長	山岸	寿代	君	市民	課長	岩崎	良之	君	
環境	生活課長	渡辺	勇	君	福祉	事務所長	加藤	美也子	君	
健康	増進課長	山本	将世	君	交流	観光課長	藤田	年明	君	
商工	農林水産課長	斉藤	孝	君	建設	課長	串橋	秀樹	君	
都市	整備課長	金子	晴彦	君	ガス	水道局長	小林	忠	君	
消防	長	大滝	正史	君	教育	長	竹田	正光	君	
教育	次長	伊奈	晃	君	教育	委員会こども教育課長	渡辺	寿敏	君	
教育	委員会こども課長兼務									
教育	委員会生涯学習課長				教育	委員会文化振興課長				
中央	公民館長兼務	竹之内	豊	君	歴史	民俗資料館長兼務	佐々木	繁雄	君	
市民	図書館長兼務				長者	ケ原考古館長兼務				
勤労	青少年ホーム館長兼務									
監査	委員事務局長	池田	正吾	君						

〈事務局出席職員〉

+	局	長	小林	武夫	君	次	長	猪又	功	君	+
	主	査	室橋	淳次	君						

〈午前10時00分 開議〉

○議長（樋口英一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、10番、中村 実議員、18番、松尾徹郎議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

13日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川21クラブの田原 実です。

質問に入ります前に、先月の26日に急逝されました伊井澤一郎副議長の長年の功績をたたえ、哀悼のまことを捧げますとともに、米田市長様はじめ糸魚川市職員の皆様、糸魚川市議会議員の皆様にお世話になりましたことに、会派の議員として心より感謝し、お礼を申し上げます。

これまで伊井澤議員が議会の中で、先頭に立ち取り組んでまいりました中山間地の課題解決、農地環境整備、農業、林業を生かした地域振興、情報通信網の整備促進、また、会派の政策として取り組んできました地域医療体制の整備、公共交通システムの整備促進、都市農村交流推進、ジオパークを生かした観光と文化の振興などについて、これからも伊井澤議員の志を引き継ぎ、市政繁栄のために邁進していく所存でございます。これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、この場をお借りし、お願い申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。

では、事前に提出しました発言通告書に基づき、以下、質問をいたします。

1、医師・看護師確保など地域医療の諸課題と糸魚川市の対応について。

- (1) 糸魚川圏域の医師・看護師数の現状と課題について伺います。
- (2) 365日24時間救急医療体制の現状と課題について伺います。
- (3) 地域医療への不満など市民の声への行政対応について伺います。
- (4) こどもの命を守る取り組みについて伺います。
- (5) 保健センターの改修工事と活用について伺います。

2、糸魚川市の交通政策、公共交通の確保と充実について。

私は昨年の6月議会でも同様の質問をしていますが、1年を経過し、新幹線開業まで9カ月、そのダイヤ発表まで6カ月となった現在において、糸魚川市の交通政策にどういった進展があったのか、改めて伺います。

新幹線が開通して糸魚川に停車しても連絡が悪いなど、2次交通の利便性に問題があれば、新幹線を利用して糸魚川に訪れる交流人口増大は難しいだろう。しかれば、どうするという課題。また、著しい高齢化と交通弱者の増大への対応をどうするという課題がありながら、その対応は平成25年に見直した糸魚川市交通ネットワークビジョンに示されたとおり具体化できるのか。市民や

利用者本位の取り組みとなっていくのだろうか危惧し、伺うものです。

- (1) 新幹線、鉄道、バス、タクシーなど市内公共交通の現状と課題について伺います。
- (2) 病院、診療所への交通に対する糸魚川市からの支援について伺います。
- (3) 新駅「押上駅」設置等、えちごトキめき鉄道株式会社の課題について行政の認識を伺います。
- (4) 観光客に便利なダイヤ編成、鉄道とバスの連携について伺います。
- (5) 北陸新幹線糸魚川駅から観光地白馬・安曇野への交通について伺います。

3、糸魚川市の「営業」展開、費用対効果について。

- (1) 糸魚川市の観光資源・文化施設・農林水産体験学習などを活用した誘客について伺います。
- (2) 観光消費と地域経済への波及について伺います。
- (3) 糸魚川産品の首都圏、関西圏への販路拡大について伺います。
- (4) 東京事務所設置の費用と効果について伺います。
- (5) 糸魚川応援隊の活動と参加メリットについて伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、24年12月現在で医師58人、看護師273人が登録されておりますが、国、県の平均より少なく、医師及び看護師の確保が課題であります。

2点目につきましては、糸魚川総合病院や医師会にご協力をいただき実施をいたしておりますが、医師確保や医師会の高齢化が課題となっております。

3点目につきましては、ご意見を真摯に受けとめ、改善に向け取り組んでおります。

4点目につきましては、乳幼児健診をはじめ予防接種、医療費助成などの多くの事業を実施いたしております。また今年度、医療費助成の対象の拡充を図っております。

5点目につきましては、耐震補強にあわせて暖房設備の更新、床材の張りかえやバリアフリー化など改修を行います。また、これまで実施してきた各種健診や講座のほか、介護予防教室や地域運動教室などの会場として、利用を検討してまいります。

2番目の1点目につきましては、自家用車の普及や人口減少により、通勤通学等の利用が大きく減少いたしており、経営やサービス維持に苦慮している状況であります。そのため、いかに利用拡大や利便性、採算性の確保を図るかが課題となっております。

2点目につきましては、病院や診療所への通院に配慮したバス路線を組み、運行いたしております。

3点目につきましては、輸送密度の低い区間を受け継ぐため、国、県、市の支援がないと安定経営ができない点が、大きな課題であると考えております。

新駅設置につきましては、今年度、えちごトキめき鉄道の基礎調査及び市の詳細調査を行い、検

討してまいります。

4点目につきましては、バス事業者と調整を図り、鉄道との接続利便性の高いダイヤ編成に努めてまいります。

5点目につきましては、鉄道では新幹線と大糸線のダイヤを調整し、白馬方面への利便性向上が重要と考えております。

また、国道148号の改修、地域高規格道路松本糸魚川連絡道路の早期着工も同様であります。

3番目の1点目につきましては、観光ツアーや体験教育旅行でヒスイ峡などのジオサイト、フォッサマグナミュージアム、谷村美術館などの文化施設、聖学院中学をはじめとした農林水産体験などを組み合わせたツアーの企画販売に取り組んでおります。

2点目につきましては、観光庁試算ソフトにより25年度の観光入り込み数で試算いたしますと、直接効果で約172億円となります。

3点目につきましては、東京都内で食談会を開催した結果、7月からの1カ月間、アンテナショップを開設することとなりました。また、7月11日からの3日間、食談会を開催することといたしております。

関西圏では関西糸魚川会の協力を得て、糸魚川製品のインターネット販売に取り組んでおります。

4点目につきましては、25年度決算額で、人件費を除いて約414万円ですが、そのうち186万円は日本ジオパークネットワークが負担をいたしております。

効果といたしましては、糸魚川市の首都圏での戦略的窓口として、また、糸魚川ジオパークの全国への発信機能と、中央省庁、都道府県への糸魚川の認識度向上にも大きな役割を担っております。

5点目につきましては、隊員の役割は、糸魚川の魅力や情報を積極的に情報発信をしていただくことと、糸魚川への帰郷、訪問していただくことの2点であります。

登録特典といたしましては、メールマガジン等によるふるさと情報をはじめ、フォッサマグナミュージアムへのご招待券などがあります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、地域医療の諸課題と糸魚川市の対応について、再度の質問であります。

医師・看護師が少ない新潟県、その中で、さらに医師・看護師が少ない糸魚川圏域の現状について、先ほど市長からも数字をいただきました。糸魚川では、特に看護師不足が深刻です。今現在、市内の医療機関で募集している数、すなわち不足している看護師数はどのくらいなのか。そして医師・看護師数の他地域との比較、また、ここ数年の経緯と将来への見通しなど、どう分析をしているか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

おはようございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、お答えをさせていただきます。

医師・看護師の数につきましては、人口10万人に対してという数字でお話をさせていただきます。医師におきましては、平成24年度末現在で、全国平均で227人、新潟県平均といたしまして182人、当市につきましては121人、県内の20市の中では11番目というような数字でございます。

また、看護師につきましては、同じく人口10万人当たりでございますが、全国平均で796人、新潟県平均で843人、当市におきましては588人でございます。県内の20市の中では、14番目というような位置づけになっております。

これまでの推移と今後の見通しについてでございますが、医師におきましては減少傾向が続いておりますが、当市が実施をいたしております医師養成修学資金を利用した方が、現在6名おられます。このうちの1名の方が平成24年4月から臨床研修医といたしまして、また、本年4月からは内科の医師として、糸魚川総合病院にご勤務をいただいております。また、来年の27年4月には、順調にいけば2名の方が臨床研修医として、糸魚川総合病院で勤務いただける見込みでございます。

看護師につきましては、年々、数の上では増加傾向でございますが、まだまだ不足している状況でございます。

当市の医療機関での看護師の募集状況につきましては、ハローワーク等で直近の数字として確認できる数字といたしましては、15人程度というふうな数字をハローワークから聞いております。ただ、この人数が、直ちに当市での看護師の不足している人数ではないと、まだまだ不足しているんだというふうに考えておまして、今後も確保の努力が必要だというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

看護師の不足数は、15名じゃないと思うんですね。もう少ししっかり調べていただきたいと思っておりますが、どうですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをさせていただきます。

糸魚川総合病院におきましても看護師不足というふうな話は、ちまたでお聞きいたしておりますが、今現在、糸魚川総合病院のほうに直近でお聞きした中だと、糸魚川総合病院さんのほうでの看護師の配置計画からすると、今現在は、その計画人数は達しているという状況でございますが、新年度に向けての募集等は厚生連全体としては実施しておりますが、今現在、直ちにという部分で

は、糸魚川総合病院さんは実施をいたしておりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、救急医療体制の現状と課題について伺います。

広い面積、そして深い谷を幾つも有する地形、1つしかない総合病院、慢性的な医師・看護師不足という状況で365日24時間、救急医療体制を続けることはどう考えても困難。実際に糸魚川総合病院も土曜日を休診にし、医師・看護師を休ませないと医療体制が続かないことが心配されます。姫川病院が閉院したころとは状況も変わっていると思いますが、どのように分析していますか。また、これからはどうなるのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

当市の救急医療につきましては、市長のほうからもお話しましたように地元医師会、また、糸魚川総合病院のご尽力によりまして、365日24時間の救急医療体制を続けておりますが、市長の答弁でもお話しましたように開業医の皆様方の高齢化、また、糸魚川総合病院におきます勤務医の減少などにより、大変厳しい状況であるというふうに認識をいたしております。

市といたしましても、医師養成資金の貸与事業、また、大学連携臨床研究支援事業等を通じまして、当地にそれらの方々に興味を持っていただくとか、高度医療技術者人材育成支援事業等の事業展開や、また、富山大学、新潟大学との医師を派遣いただいている箇所に対して、お願いするなどの取り組みを進めさせていただいたところでございますが、直ちに解決できるような状況にはなっておりません。

また、平成25年度におきましては、医師の修学資金貸与額といたしましては、当市の貸与額につきましては全国的に高い水準でございまして、全国の医大、または北信越の医大への進学率が高い高校等への、この貸与事業のポスター等を送付させていただきまして、周知に努めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ポスターを送って周知に努めているということですが、やはり出向いて、真剣にお願いをしてこなければいけないのではないかなと思います。

いかなる状況でも、糸魚川圏域での救急医療体制と2.5次救急対応は市長、行政の力で、何としても確保していただきたい。そのための市民の理解と協力も必要になろうかと思いますが、私は常々申し上げていますが、地域医療への市民の理解と協力をいただくことが、行政の役割ではない

か。単なる周知ではなく市民理解と市民協力、医療の現場に委ねるだけでなく、病院、医師会、関係機関と連携を密にし、行政がこのことを積極的にマネジメントしなければいけないと思います。今、糸魚川で、このマネジメントの先頭に立ってくださっているのは、糸魚川総合病院の樋口先生ではないかと思います。糸魚川総合病院のホームページや機関紙「まいほすびたる」、これであり、病院に置いてございます。この中で、さまざまな取り組みを丁寧に紹介してくださっています。

さて、担当課長や職員の皆さんは、これを隅々までごらんになっていますか。また、地域医療に対する市民の理解と協力を進めるための行政の取り組みは、病院の取り組みと比較して十分と言えるのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

まず、糸魚川総合病院のホームページにつきましては、必要に応じて随時、見させていただいているという状況でございます、毎日確認という形ではありません。

また、糸魚川総合病院が発刊をいたしております「まいほすびたる」につきましては、年4回程度の定期的な形で発刊をしておりますが、今年に入りましては1月、4月の2回、発刊されております。これらにつきましては課内回覧を行いますし、また、私のほうも見させていただいているところでございます。

地域医療を維持するためにおきましては、医療にかかわる方々だけではなく、市民の皆様方のご理解、ご協力が不可欠であるというふうに考えておまして、特に、救急医療に関しまして、広報を通じ、周知に努めさせていただいているところでございます。今後も市民の皆様がご理解いただけるような形で、周知に努めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そうですね。しっかりと取り組みをお願いしたいと思います。

それには病院と情報を共有し、連携していかなければなりませんけども、病院は今現在の情報をいろんな形で伝えようとしているのに対して、市のホームページでは、平成19年の糸魚川地域医療体制整備推進会議報告書、糸魚川地域における医療体制のあり方として糸魚川市の現状、人口が4万8,788人、高齢化率31.9%をベースにした情報をいまだに掲載しています。インターネットの利点は速報性なのに、病院と行政で6年の時間差があるのはいかなものかと思いますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

ただいま議員のほうからご指摘にございました、糸魚川地域医療体制整備推進会議報告書につきましては、平成9年度にまとめさせていただいたものでございますが、これにつきましては、姫川病院の閉院に伴い、当市の地域医療のあり方について基本的な考えとしてまとめさせていただいたものでございまして、その基本的な考えにつきましては、今現在も生きているというふうと考えております。

しかしながら数値等につきましては、当市の置かれている最新の情報を使いながらご理解いただくような形で提供をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○13番（田原 実君）

平成9年と言いましたかね。

○健康増進課長（山本将世君）

大変失礼いたしました。平成19年度でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

私は毎年6月議会一般質問で、地域医療の諸課題と市の対応について伺っています。去年は医療フォーラムなどによる、医師不足と救急医療への市民の理解を得る必要性を訴えました。おかげさまで、昨年11月18日に市内で地域医療フォーラムが開催され、病院における救急医療の現状として、糸魚川総合病院の樋口先生のご講演があり、糸魚川市の救急医療の特徴と、住民アンケートから見える救急医療への課題として、糸魚川地域振興局健康福祉部の松山さん、糸魚川市における救急搬送の現状として糸魚川市消防本部救急係の長野さんから、それぞれ報告がありました。

1時間ほどのフォーラムでありましたが、参加者からのアンケートを見れば、内容があり、わかりやすく、大変ためになったという意見が多く、評価できるものであると思います。行政ではこのアンケートの結果を踏まえて、今後、最優先で取り組むことは何だとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

医療フォーラムでのアンケートにつきましては、65名の方からご回答をいただいております。中身につきましては、やはり救急医療等の状況等について、知らなかったという方も何人かいらっしゃいます。そういった意味では、やはり市民の皆様方に、当市の置かれている状況等につきまして、ご理解いただけるような形で周知に努めることが、重要だというふうに考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そうですね。私はこれからはインターネットなどで、糸魚川市救急医療の現状と課題、医師・看護師不足の現状などについて詳細を、リアルタイムで情報公開することを進めるべきと思います。昨年11月18日の地域医療フォーラムの樋口先生のご講演や行政からの報告も、情報発信して生かすべきだと思います。

私は先日、中学生が考える糸魚川市の活性化策や、まちづくりのヒントになるような話をしてほしいということで、市内の中学校に招かれる機会がありました。そこでは多くの生徒が地域医療に危機感を持ち、その充実をテーマに考えてくださっていますので、市内の中学生や高校生にも見ていただけるよう、地域医療フォーラムを録画、録音したものをネットで公開し、研究してもらえば、やがては医師・看護師養成に役立つと信じます。中学生のときから地域医療への関心と、進学や就業へのモチベーションを上げてもらえれば、願ったりかなったりじゃないですか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今、田原議員からお話がありました地域医療フォーラムにつきましては、録画等の措置はしておりません。したがって、それを流すということは難しい状況でございます。

ただ、議員ご指摘のように、これからの糸魚川市を担っていただきます中学生、高校生への情報提供というものは、大変重要なものというふうに思っておりますので、どのような形で情報提供ができるか、検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

教育委員会のほうは、どう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

中学生のほうではキャリア教育の一環としまして、中学1年生で上越管内の大学見学というのを実施しております。その中に県立看護大学も入っております。中学1年生全員を見学に行かせておりますが、また、その中で、先ほどのようなもしビデオがあれば、これからのキャリア教育に、さ

らなる学習の機会があるのかなというふうに考えております。子供たちの関心は高いのではないかなというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

現在、そして将来に向けて、情報をいかにわかりやすく、広く伝えていくか、研究してもらえるか、そこがポイントだと思いますね。DVDになっていないというのは、残念でありますけども、しかし、そのことをテーマにしたDVDをこれからつくることは可能です。そういった取り組みはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

それぞれの講座、また、そういったものの中身にもよりますけども、そういったものが検討できるものがあれば、検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ひとつ積極的に進めてください。

今日ネットの活用は、医師・看護師確保にとって大切なことであります。全国の医師や研修医が、糸魚川市のホームページを見てることでしょう。そこに地域医療への危機感と真剣な取り組みを見ていただければ、糸魚川へ来て医療に参加して下さる動機づけになるかもしれません。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

確かに議員がおっしゃいますように、外への当市の状況等を理解いただく分につきましては、インターネットを活用した形では大変重要なものだと思っております。ただ、こういったものを情報発信できるのかにつきましては、今後研究し、させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

+

○13番（田原 実君）

積極的に進めてください。早く進めてください。

次に、地域医療への不満など市民の声への行政対応について、担当課より詳細に伺いたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

昨年度の広報等の直通便での地域医療に対しますご意見につきましては、5件ほどいただいております。

内容といたしましては、皮膚科や耳鼻咽喉科、そういった開業医が欲しいといった中身。また、病院が当市に1つしかなく、比較検討できる状況ではない。また、市内の医療機関等を整備していただきたいと、そういった中身でございます。

皮膚科につきましては、市内では皮膚科を診療科目として掲げている開業医もいらっしゃいますことから、それらの周知を努めさせていただきたいというふうに思っておりますし、耳鼻咽喉科につきましては、現在、糸魚川総合病院におきまして、非常勤医師によります診療が行われておりますが、常勤化できないか、医師の派遣先をお願いする段階で、それらも強くお願いをさせていただいている状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

当然、病院や医師会の皆さんとの協議というのは持っていると思いますけども、やはりこういう市民の不満の声というのは、あつと言う間に広がっていきます。それがまた地域医療の足を引っ張るということもありますので、ここをフォローするのは、やはり行政の役割だと思いますけども、そういったことはいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

議員ご指摘のように、やはり1つの不満が大きく市民の中で伝わるということは、現実的にあり得ることだと思っております。したがって、それぞれいただいたご意見等につきましては、真摯に対応させていただきまして、ご回答をするなり、そういう対応をとらせていただきますし、また、広くそういったことがないような形での周知に努めさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、子供の医療について伺います。

議会からのさまざまな提言もあり、また、市長、行政のご配慮、そして取り組みで、この子供の医療の拡大が進んでいるということに関しまして、心より感謝を申し上げる次第であります。

しかし、その中で子供の救急医療については、足踏み状態なのか、どうなっているのか、もう一度伺いたいと思いますけども、糸魚川市からの情報の出し方、糸魚川市による身近に相談できる子供救急の対応について、昨年6月議会の答弁では、これらについてはホームページ等でも周知をしているが、今後、より一層の周知を図るように努めたい。県や医師会等とも相談、協議をしてまいりたいということでありましたが、この1年間で検討され、充実したことがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

まず、この子供の救急対応でございますが、基本的には、かかりつけ医の相談、あるいは糸魚川総合病院の救急外来への相談が一番のこととっております。ただ、そこまでいかなくても相談できる場所があればということで、相談窓口の対応等を行っておるわけでございますが、現在、新潟県では電話相談で、小児救急医療電話相談、あるいは日本小児科学会のこどもの救急ホームページ等が、その場で相談できる体制になっております。

これにつきましては、前回もお答えしたとおりホームページで掲載しておりますが、その後、出生届に参った保護者全員に対しまして、子育てお役立ちブックというのが配布されるんですが、その中でも、今、申し上げました相談の対応についての周知をしておるところでございます。新潟県に対しましても今の電話相談の対応を、もうちょっと時間なりを拡充してほしいという要望はしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

結局、県に任せたという形が、この1年間ずっとあるよということですよ。

昨年も申し上げましたが、糸魚川市は日本一の子育てを掲げる以上、子供の医療においても日本一を目指すべきだと。県内で1番の子供の医療費助成、そして子供救急の情報の出し方、相談対応、救急対応においても日本一となるよう、市として積極的に取り組んでいただきたいと申し上げました。ただ、教育委員会の中では、そのことが進まないのはなぜか。そのことも考えてみるべきだと私は思います。

初日の一般質問において笠原議員が、いじめの問題を取り上げていました。命にかかわるいじめの問題と同じように、子供たちの大切な命を守り、大切に育てることに対して、市民に仕える公務員として、もっと必死になってほしい。糸魚川で安心して子供を産み育てられる環境をつくるために、いじめをなくすのと同じように子供救急の情報の出し方、相談対応、救急対応においても、子供と親が安心できる糸魚川市を目指して、必死に考えたらどうなんでしょうか。何が何でも子供の命を守る、その覚悟が皆さんにありますか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

子供の命は、健康を守るということで、いろんな医療費助成とか乳幼児健診、あるいはインフルエンザの予防接種助成などをしとるわけですが、そういう意味から申しますと、今年度、新たに小学校5年生を対象に血液検査による生活習慣病予防事業、あるいは小中学校での健診で、側わん症健診というのがあるんですが、背骨が曲がるのを調べるんですが、それも昨年度から専門家による指導なり検査を受けて、それもことし充実していきたいということで、そういう意味では新たな取り組みをして、子供の命、健康を守る取り組みをしておるところでございます。

もう1つの相談のことでございますが、やはり通常の育児相談等と違いまして救急でございますので、やはりその専門的な指導なりを必要とします。基本的には、最終的には医師の指導なりがないと、医師でないものがこの救急の相談を受けるというのは、なかなか非常に難しいとこもありますので、無責任な対応になっても困るということで、例えば市で医師を雇って相談対応させるというのは、ちょっと現実的ではないので、やはりかかりつけ医、それから糸魚川総合病院の救急外来、この方々にそういう対応を、今、お願いしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

昨年は市長から、医療のことだから、行政がそこにおいても責任を負うことはできないだろうというお話があって、当然、そうだと思います。しかし、糸魚川の中学生たちが、未来の糸魚川の発展のために医療のまちづくりを一生懸命考えてくれている。なのに糸魚川の対応は弱いままだというのは、私はむなしさが増すばかりであります。

さて、子供の命を守る医療ということで1つ提言をして、次の質問に移りたいと思います。

私は市のホームページで、子供の命を守るをテーマにした特集記事の掲載、トップページへのバナーの設置をすること。そして次に、子供の命を守るガイドブックの作成をお願いしたい。内容は言わずもがなで、子供の医療への行政対応、電話相談、そして必要であれば心のケアや、いじめ予防から地域防犯、見守りまで、子供の命を守る情報の情報を集中して、市民に見えるように取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘の点につきましては、糸魚川市は今、限られた財源の中で精いっぱい取り組んでまいっております。ぜひとも他の地域とお比べになっていただいても結構でございます。決して弱いことはないと思っておるわけでございまして、まだまだやらずにちゃいけないことはあろうかと思っております。

ただ、他と比べてそんなに遜色はなく、また、逆に優位なところが多い部分で、我々はやはり糸魚川の子供たちをどのように育てていくか、また、どのように我々地域の教育の中で、しっかりと位置づけていくかというのを捉えておるわけでございまして、その辺もご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そこは理解します。しかし、目指すものが日本一のというところに、私はやはり米田市長に一番魅力を感じているんですよ。ですから、ほかと比べて遜色はないというのではなく、やはり日本一を目指していただきたい。お願いします。

それでは、保健センターの改修工事と活用について担当課より、いま一度詳しく伺いたいと思いますが、保健センターの活用計画については、工事を始めたいと言いながら、いまだ利用計画が委員会に示されていません。一体何をもとに設計し、工事をしようとしているのか。設計業務委託、工事業務委託だけ決まって、中身が議会と市民に示されていないのは、まさに本末転倒、行政の怠慢ではないでしょうか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

保健センターの改修後の利用計画につきましては、今、議員がご指摘のように利用計画という形では、常任委員会のほうに、まだご提示はできる状態になっておりません。

ただ、今回の保健センターの改修につきましては、あそこの保健センターは、ほぼ乳幼児健診とか、そういった形で月が決まった中で、毎月、定期的で開催してるものも数多くございます。青海地域、能生地域に比較いたしまして、稼働率としては高い状況でございます。したがって、新たな分につきましては、そういったスケジュール調整をする中で、今考えておりますのは、せっかくバリアフリー化いたしますので元氣塾などの介護予防や、私どもが実施しております地区運動教室につきましては、あの周辺では行っておりませんので、そういった形で活用するよう、今、計画

を詰めている状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

この機会に、ちょっと勉強させてください。今、稼働率とおっしゃいましたけども、その稼働率というのは、どういうふうに出してくるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

稼働率という言葉が適正かどうかわかりませんが、私のほうで平成25年度の利用状況を調べさせていただきました。その中を見ますと、やはり昼間の午後の時間帯等の使い勝手のいい時間帯につきましては、もう既に幼児健診や、またほかの教室という形で入ってる状況でございまして、やはりある程度調整をしませんと、有効には使えない状況でございます。

今、稼働率と申しましたのは、そういったものが1日の中に使用実績があるというものを、午前・午後ぐらいのスパンの中で見させていただきまして、お話させていただいたものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

かなりの投資だと思うんですね、金額的にも。ですから今おっしゃった稼働率といったことが、限られた用途だけじゃなくて、さまざまな形の利用があって、それが市民の健康増進に有効につながっていくといった、そういった計画を早く示していただきたい。

保健センターという健康診断、集団健診というイメージがありますけども、まず、この健康診断の受診率の向上、これに寄与するものであってほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

健診の受診率につきましては、既に夕方の健診、また、土日等の休みの健診等につきまして、受けやすい体制ということで受診率の向上を図ってるところでございしますが、今回、糸魚川保健センターのほうの改修によりましてバリアフリー化され、誰もが利用しやすい形になりますことから、身体機能等が衰えた方、また、そういった形で健診を控えられた方も含めまして、ご利用いただけるよう広く皆さん方に、直したということの周知を広めながら、ご利用いただきたいというふうに

思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

国保の受診率を取りざたされていますよね。糸魚川市はその受診率を、どこを目指しているのか。この受診率が高いと、国からたしかお金がもらえるんじゃないんですか。そこら辺、どういう状況でしょうか。つまり、この保健センターの改修工事にあわせて、糸魚川の受診率が高くなっていないと、やはり意味がないわけですよ。そこをどう捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

今、議員がご指摘のように国保のほうの受診率につきましては、国保のほうでの調整交付金等の影響があるものというふうに思っております。

この受診率向上につきましては、今ほどの施設の改修によつての利用増もそうでございますし、今現在、国保加入者の方で、特定健診は受けていらっしゃるんですが、既に病気をお持ちで、医療機関にかかっている方もおられます。そういったものをお医者様のほうから情報提供いただくことによつて受診率を上げたいということで、今、平成25年度から、取り組みを始めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

保健センターの改修と受診率のアップということで伺っているんですけども、そののところをもう1回聞きたいですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

医療費の削減、あるいは人の健康ということで大事なことは、今ほど議員さんからもご指摘されるように、そのうちの1つとして健診の大切さがあります。この健診の大切さについては、もちろんハードの整備や、あるいは健診を受けやすいという体制づくりについては、1つ大事なところなんです。最もやはり大事なところは、市民の方々ができるだけ健康でいて、ただ、不幸にしてどうしても病気にかかる場合がありますが、それを早期に発見して、早いうちに治療することが、本人にとっても大事であるし、また、医療費もかからないということでもありますので、とにかくこの健診の重要性を市民にいかに理解していただくか。そして健診率を上昇させるかが大事なところ

だということですので、私どもはいろいろな機会、「おしらせばん」あるいは講演会、そういったものを利用して、市民からできるだけ多く健診を受けていただいて、自分の健康は自分で守っていくという考え方を身につけていただくよう努力していかなければならないので、今ほど申し上げたような手段で、市民に対してPRをしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

じゃあ保健センターの改修と受診率のアップは、特に関係ないんですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

今ほど前段で申し上げましたように、市民の方々から健診を受けていただくためには、先ほど言いましたようにPRも大事ですし、それから健診を受けていただくところの施設、健診を受けやすい、いわゆる施設整備、これも大事だというふうに前段でちょっと申し上げて、前段の話はちょっと、保健センターの整備については、なりましたけども、やはり住民の方々から健診を受けることの大切さが大事だということを、ちょっと後半のほうで強調させてもらいましたが、当然、施設を整備して、健診を受けやすい体制にするということも大事でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

それでは次に、これは私もみずからの姿を鏡に映さねばなりませんけども、メタボ対応での活用について、そしてロコモ対応での活用について、それぞれに保健センターをより活用していくべきと考えますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今現在、先ほど申し上げましたが、あそこの保健センター改修後の中で地区運動教室、そういったものが開催できないかという検討をしておりますのでございまして、そういった中でメタボ対策。また今、ロコモというお話がございましたが、それらにつきましては、その運動の一環の中にも含める形で、実施をさせていただきたいというふうに考えております。

また、先ほど申し上げませんでしたでしたが、当糸魚川保健センターについては、昼間の時間帯の利用率は結構多いですけども、夜間の部分が割と空いている状況でございますので、その辺での活用ができないのかにつきましても、あわせて検討したいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

それを早く委員会に示してください。

では質問の2、糸魚川市の交通政策、公共交通の確保と充実について、2回目の質問をいたします。

まず、公共交通の利用者の総数が限られている中で、いかに通勤通学、生活路線としての利用をキープするかが課題であったと思いますが、この点、行政が努力したことは何か伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

少子高齢化の中で、全体の利用者が激変していることは事実でございますが、そういう中での通勤通学者に配慮した路線バスのダイヤの工夫、それから本数の工夫、そういうことで路線を維持していくということを行政として図ってまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、通勤で公共交通を利用している企業との協議というものは持ちましたか。その内容は、どのようなものでしたか。また、通学で利用する教育機関との協議は持ちましたか。その内容は、どのようなものでしたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

特に通勤では、企業とそういう話し合いを正直、持ったことはございません。そういう中で、高速バスでは商工会議所、商工会、それから農協や例えば地域振興局と、利用促進についてお願いなりしてきた、そういう経緯はございます。

また、教育機関とは毎年ダイヤの改正があるときに例えばこども教育課と調整をして、どういう時間帯、どういう路線というバスの調整をするか、これはスクールバスも含めて協議をしとるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

しっかりとそここのところをやるのが、やはり役所の仕事だと思うんですよ。

では、病院、診療所への交通に対する糸魚川市からの支援について再び伺います。バス、タクシーを利用しやすいものとするために、行政が努力してきたことは何か伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

まず、これは市長もお答えしましたが、路線バスのほとんどの区間は、医療機関をめぐらせるような形での配置といたしますか、ダイヤを促進しておりますし、そのほかにコミュニティーバスなどでは、路線バスのない地区では医療機関へ行くためのコミュニティーバスを運行して、特に、やっぱり医療機関を中心に、ダイヤを工夫してきたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ダイヤ以外にも、検討すべきことはたくさんあります。

中央大通り線の開通で交通の流れが大きく変わったこと。糸魚川総合病院や診療所など、中央大通り線沿いの医療機関へ出向く高齢者が多いこと。したがって、その利用者のためのバスのベンチやシェルターの整備について伺いたいと思います。

まず、市民からいただいた意見、要望をご紹介します。

糸魚川バスでは必要性、効果を理解しているものの、単独でベンチやシェルターを設置する財力が不足しているのではないかと。各地区の地縁団体から要望し、糸魚川市公共交通機関利用促進事業補助金での整備を考えてみた場合には、近くに病院やスーパーがそろっているところが、地区外から来る人のために資金を出して設置するということは考えにくいだろう。糸魚川信用組合さんのように進んでベンチを設置することは、まれと考えるべきだ。

年をとっても外に出かけられるかどうか、元気でいられるのかの分かれ目だと私自身は思っている。何かの手助けがあれば出かけられるという、ぎりぎりの人がいるのであれば、それを手助けしてあげるのが福祉だと思う。高齢者生活調査アンケート結果を見ると、市民から求められているのは、おでかけバスのような支援だけではない。高齢者の移動手段をバスだけに頼るのは、あらゆる面で不合理があるのは理解しているが、健康に自活できる高齢者のために、ベンチやシェルターを含めた路線バスの乗降環境の整備が必要だとアンケート結果から感じている。

このような状況から、バス停へのベンチやシェルターの設置については地区要望という枠を超えた、地域や市民の福祉の増進という観点において必要性や有効性が認められる範囲で、行政が中心となって進めるのが合理的だと思うと、こういう意見をいただいております。このことについて、今後の行政の対応はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

中央大通り線のベンチの件では、私もある機会に信組さんとお話させてもらって、そういう経緯の中でご協力をいただいたと記憶しております。そういう中で、中央大通り線は非常に交通量は増してきて、中にはお年寄りが側道のところに腰かけている場面も見られましたので、そういうものがないかというような形で、協力をお願いした経緯があります。

今のご意見の中では、いろいろそういうことも総論的には正直、そういうものがないかというのは、今後、調査はしていきたいと思いますが、今のところ議員がおっしゃられた公共交通機関利用促進事業補助金の中で、バス停の設置等が動いているのが実情でございます。その辺、どこまで一歩踏み出せるかというのは関係機関、関係課とも調整して、どのような形でそういうものが進められるか、もう少し調査してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

今の答弁を聞くと、できませんと言ってるように聞こえるんですけど、そういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

できませんと言ったつもりはありません。何とかしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

次に、えちごトキめき鉄道株式会社の課題について。

まず、何と言っても利用者増大に向けて行政は何をしてきたのか。そして新駅、押上駅の設置に関しては、それが単に駅のホームをつくるのではなく、新しいまちづくりとして取り組んでいくという、地元区民をはじめ関係団体の強い決意が示されていますが、これに対してどう応えていくのか、2点について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

まず、えちごトキめき鉄道の課題についてですが、この経営計画の中で特に関係市としても言ってきたことは、まず、これは運賃をできるだけ抑えてもらいたい。富山県、それから長野県とも同じような会社がありますが、それと同等となるような形でという形の中では、今、5年間は現状据え置きという。それから運行本数についても、今よりも利便性を多くしていただきたいという中で、これは富山方面のほうは現状維持ですし、また、直江津方面は若干であります、今のところ

本数をふやすということ。それから利便性のいいダイヤも、これはまだダイヤを発表しておりませんが、そういうことを要請してきております。

それから新駅設置についてですが、これは利用者拡大の1つのポイントというふうに捉えておりまして、市では前向きに捉えた中で、これを県に要望してまいりました。そういう中では、県がことし予算化しました新駅の調査費、それから補助金の保有制度についても、これは市がいろんな形で要望したことの1つのあらわれだと思っておりますし、これがひいてはえちごトキめき鉄道、それから駅がつくられた周辺のまちづくりの促進につながればというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

県に要望したと、そして調査の予算をつけたと。でも、そこまでなんですよ。その後をどういうふうにしていくのか。利用者増大に向けて、行政は何をしてきたかということを私、伺ったんですけど、その答えはまだないんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

最初に申し上げた、そういういろんなえちごトキめき鉄道が利用しやすいような形での要請をしてきたということが、そういう答えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

その辺の課題を今月28日、鉄道フォーラムということで講師の先生、パネラーの皆さんからのお話の中で出てくるのではないかと思いますので、ぜひとも行政からもたくさんのご参加をお願いしたいと思います。

次に、観光客に便利なダイヤ編成、そして鉄道とバスの連携でどんな取り組みをしてきたか、都市整備課と交流観光課、それぞれに伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

都市整備課としては、まず、やっぱり生活路線の確保が重点でありますので、JRのダイヤ改正に対しては、いろいろ地元からお聞きした意見なりを地域鉄道部と話し合い、そういう形でのお願いをしてきておりますし、それにあわせてバスのほうの調整もしてきたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当課としては主に2次交通のほうを担当しておりますけれども、定期観光バス、街めぐりバス、駅から観タクン、レンタカー、レンタサイクルということで、いずれも定期的に関係者と協議する中で、見直し等をして進めております。特に、宿泊施設からの要望として、宿から観光できるような観光バスのような、そういったシステムを求められておまして、現状のシステムも含めて新幹線開業を見据えて見直しやモデル事業、そういった検討を今後も進めていきたいというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

観光地や観光施設を例えば糸魚川の中の、そういうポイントをめぐるといったときに、まず観光の情報と、それからダイヤの連携、こういったものがしっかりと示されているべきだと思うんですよ。そういったものが、ホームページの中で見ていけるということが大切なことだと思いますけども、そういった取り組みっていうのは、やってこなかったですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

○産業部長（加藤政栄君）

お答えをいたします。

今ほど交流観光課長からも話がありましたけれども、定期観光バスにつきましてはJRとも協議をしながら、JRを使いやすいようなダイヤ編成にしておりますし、そういった形で情報発信につきましては、これからもいろいろと工夫をしながら、こういった利便性のつながるような形のやり方をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

部長、やっぱり今、ここが一番の課題じゃないですか。やはり担当課同士のまず連携が、どうも弱いということが今も感じましたよ。やはり利用者の方は今はもうホームページの中で、観光地と、それをつなぐダイヤというものを一目で見て、糸魚川へ行ってみたいというふうを感じるわけですから、そのところを、やはり各課の連携をとっていただいで進めていただきたい。もう1回、答弁をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

+

○産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

来年、北陸新幹線が開業するわけでございます。この契機を交流人口の拡大に結びつけていかなければならないということでございますので、そこら辺につきましては、しっかりと情報発信について取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、北陸新幹線糸魚川駅から観光地、白馬、安曇野への交通について。

ここを便利に太くする戦略を進めることが糸魚川の将来を決めると私は考えていますが、今のところ具体的な取り組みが、あまり見えてきておりません。その対応はどうか、都市整備課と交流観光課にそれぞれ伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

大糸線で申しますと、これはJR西日本と東日本で南小谷で乗り継ぎがございます。今、そのダイヤを見ますと、これが必ずしもスムーズな乗りかえとは言いがたいところもございます。

そういう中では、これは新幹線開業にあわせてこの辺を、今、北アルプス日本海広域観光連携等の中で、大糸線利用も考えていく中で、もう少し乗りかえやすいようなダイヤというのがどういふものなのか、そういうものも新幹線のダイヤがないと、今、それに合わせてどういふふうにご利用していくのかというのは、なかなか見えてこない状況ではありますが、大いに南小谷での乗り継ぎの改善というのが、非常に重要だと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

現状、白馬、安曇野方面への交通については、JR大糸線、観光バス、自家用車やレンタカーというのが主な交通手段となっておりますけれども、現在、北アルプス日本海広域観光連携会議のほうで連携地域のツアー商品、そういったものの検討を行っておりますので、その中で現状の接続、それから必要であれば新たな2次交通、そういったものについても検討したいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ここ数年間の状況と、あまり変わってないということですね。私が心配し、申し上げたいことは、新幹線開業の後の地域振興に結びつく糸魚川市交通政策と戦略を今しっかり作り、また、市民の理解や協力をもらわないと、新幹線開業カウントダウンイベントだけをしても、新幹線のまちづくりにはならないということでもあります。カウントダウンイベントの段取りだけして、それが終われば、後は知らないということでは困るわけですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

○産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

北陸新幹線開業によりまして、いわゆる首都圏、あるいは関西圏とのアクセス性が向上するわけでございますけれども、これを生かした交流人口の拡大、これに取り組んでいるわけでございますけれども、これにつきましてはジオパーク戦略プロジェクトになりますけれども、全庁を挙げた取り組みをすることでございますが、この交通面につきましては、例えば広域での交通の流れでございますので北アルプス日本海広域観光連携会議、あるいは上越地域の3市との連携、そういったもののように、さまざまな他地域との共同によりまして観光客等の人の流れを、引き続き、つくっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

わかりました。

質問の3、糸魚川市の営業展開と費用対効果について、2回目の質問に移ります。

東京事務所設置の費用と効果について、もう少し詳細に伺いたいんですけども、先ほど人件費を除いてということでありましたが、人件費が一番高いんじゃないでしょうか。

それから東京事務所とは、ジオパークの事務事業のためのものなのか、それとも糸魚川の観光消費と地域経済への波及のために役立つ営業所なのか、そのことがよくわかりません。経済効果を出すための東京営業所でなければ、設置する意味がないと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

首都圏での理事者の随行とか、イベント業務での手伝いとか、首都圏の会議の代行出席とか、そういった経費削減的な効果も大きなものがありますけれども、一番の目的というのは、やはり首都圏での戦略的窓口ということで、中央省庁や県の東京事務所、それから日本ジオパーク関係団体との人脈も含めた関係強化、そういったのが一番大きな効果というふうに考えております。それがやはり糸魚川市の知名度向上につながっているというふうに思っております。

さらにジオパークの普及においても、中心的な役割を担っておりまして、ジオパークがスタートしてからこの短期間の間に、日本全国に広がった大きな要因の1つというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

東京事務所があることが、ジオパークが飛躍的に全国に広がった1つの要因になっているという、その自負は大変すばらしいと思いますね。だけど、それを生かして糸魚川にお客さんを呼び込んで経済効果を出す、そのための営業の拠点でなければ困るということ言ってるわけです。その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

そういう面でも、着実に糸魚川市の知名度というのは全国に普及しておりますし、糸魚川へ訪れていただける人、ジオパークの関係でも本市が一番の先進地ということで、毎年、多くの方から訪れていただいておりますし、修学旅行、そういったものでもふえてるというのは、やはりこういったジオパークの広がり、そういったものも1つの大きな要因になってるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そうでしょうね。しかし、それがもっと数字として出てこないとな市民の納得ってないと思うんですよ。費用対効果の効果というところを、これからもうちょっと数字で上げていくべきだと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

東京事務所のあらわす効果を数字で上げるというのは、非常に難しいことだと思っております。ただ、はっきり言えるのは、やはり中央省庁やいろんな団体と人脈、そういったものがしっかりつくられているというのは、はっきりと言えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

まあ、生かしていただきたいと思います。

糸魚川市の営業ということでは、市長はトップセールスで頑張ってるという話を聞くし、市長の話を聞いて糸魚川に興味を持ち、糸魚川へ行ってみたいくなって、以来、何度も糸魚川を訪ねて好きになったという東京の知人が私にはいます。以前、市長に紹介した加藤さんという方なんですが、その方が、つい先日も「大糸線の旅について考える」というレポートをつくって、わざわざ送ってくださいました。市長にもぜひごらんいただきたいと思いますが、素晴らしいものであります。

このように市外や首都圏にいて、糸魚川のためのいろいろ考えたり動いたりしてくださる方、まさに糸魚川の応援団に、さらに応援をいただくために、その気持ちにどう応えていくか。真心には真心で、行動には行動で応えることが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ケース・バイ・ケースであるとは思いますが、議員おっしゃるとおりだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ケース・バイ・ケースというのは、どういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

やはりそのときの状況に応じて対応の仕方というのは、いろいろな形があるということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

それで営業と言えるんでしょうかね。やはりこちらから頭を下げて多くの仲間をつくっていく中で、糸魚川というものをPRしていただきたいのであれば、ケース・バイ・ケースという言葉は、私はふさわしくないと思いますよ。

先週の金曜日、東京糸魚川会の皆さんが市役所を訪れております。その目的は、恐らく来年3月の新幹線開業を祝う東京のパーティーの案内であったと思いますが、それに対する市の対応はいかがでしたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

金曜日に訪れた際には、東京糸魚川会で別の用件で訪れたというのが主でありまして、いわゆるそのついでに市のほうへ寄って挨拶をしたということです。その次の土曜日には市長のほうで、直接、会っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

東京糸魚川会が開くパーティーのポスターがあります。庁舎の中では3階のところの壁に張ってありますが、ちょっとよく見えません。私、このポスターを、やはり1階のよく見えるところに張らないと、東京糸魚川会の皆さんの思いを受けとめたことにはならないと思いますけども、そういったところからの対応から直していただきたい、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

来年3月7日に、東京糸魚川会で60周年の記念式典を行うということでありまして。その中で東京糸魚川会のほうからは、ぜひ糸魚川から多くの人を連れてきていただきたいという話を承っております。

じゃあどのようにして向こうのほうへ人を連れていくか、誘客するか、そういったところがまだ東京糸魚川会のほうと話がついておりません。時期的には3月7日ですので、ことしの年末に向けて、そういった詰めをしっかりとすることによってホームページ等に、また、広報等でまた周知したいと思っておりますけども、そういった細かい点が決まった時点で、やはりしっかりとした周知、そういったものにもっていきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ぜひその対応をしっかりとしてください。

東京糸魚川会の皆さんは、非常に熱意があって動いております。そして東京糸魚川会の、この庁舎を訪れた皆さんは、もう現役を退いたかもしれないけども、かつては企業の戦士として第1線で活躍してきた営業マンなんです。その人たちのこの営業の力、こういったものに市もやはり見習ってシティプロモーションに当たるべきだと思います。これからそういった取り組みをするためにも、まずはこのパーティーの成功と、それから市民への周知、それから市職員の派遣などなど、真剣に考えて取り組んでいただきたいと思いますが、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

東京糸魚川会の会員の皆さんとは総会等の席、それから新潟県人会の会合のとき、そういった際にいろいろな形で意見交換をしております。中には本当にいいアイデアを持っておられて、提言してくださる方もおりますので、そういったことで、やはり本当に東京糸魚川会の皆さんのふるさと糸魚川を思う思い、そういったものは本当に強いていっているのは感じておりますので、今後もしっかり情報交換したり連携する中で、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

その情報交換と連携をどういうふうに進めるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

やはりそういった情報を聞いた人間だけ終わらせると情報が広がりませんので、いかに市内全体で共有させるか、また、チーム糸魚川として共有させるかというのが課題でありますので、いい情報があったとき、または生かせる情報、そういったものについては多くの方と情報共有する中で、生かしていくようにしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ですから私が言いたいのは、そこにとどまるんじゃなくて、東京糸魚川会という糸魚川出身者のすばらしい人材の集まり、しかも営業の力を持った人たちなんですよ。この力を糸魚川市のためにどう生かすか、どう連携するかということなんですよね。ですから、交流観光課で東京糸魚川会の専属とならなくてもいいけども、やはり担当をつけて、まめに連絡をとって、そして皆さんが、どういう営業というものをするのかということの大いに学んで、役立てるべきではないでしょうか。終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

○20番（古畑浩一君）

おはようございます。

奴奈川クラブ、古畑浩一でございます。

通告書に従いまして、これより一般質問をさせていただきます。

1、少子高齢化と人口対策について。

少子高齢化・人口対策問題は、これまでも何度も取り上げ、早急なる施策の実施を要望してまいりましたが、この程、限界集落から消滅可能性都市へと、よりショッキングな将来推計が発表されました。

「日本創成会議・人口減少問題検討分科会」によると、全国1,800市区町村（政令市の行政区を含む）の49.8%に当たる896自治体で、子どもを産む人の大多数を占める「20～39歳の女性人口」が2010年からの30年間で5割以上減少し、896自治体を「消滅可能性都市」と位置付け、有効な手を打たなければ将来消える可能性がある。

また896自治体のうち、2040年の人口が1万人を割る523自治体（全体の29.1%）につきましても「消滅の可能性が高い」とし、より衰退のおそれが大きいとしております。

出生率の水準が今後も変わらず、人口流出も重なったモデル都市でみますと、2040年には20～39歳の女性人口が半減し、70～80年代には2割程度に減る。こうした地域は流出人口が出生数を上回って人が減り続ける。医療・介護保険の維持が難しくなって将来消滅する可能性があるといえます。

糸魚川市は、今回の消滅可能性都市には含まれておりませんが、周辺自治体を含めて極めて深刻な状況であることには変わりはなく、先ほど発表された厚生労働省の統計では、出生数が過去最少を記録し、新潟県においても同様の結果となっております。

米田市長におかれましても「30年持続可能なまちづくり」「4万7千人の人口維持」「日本一の子どもづくり」を公約に掲げておられますが、国・県においても人口維持に向けて新たな施策を模索しており、糸魚川市としても更なる事業展開が必要と考えますが、いかがか。以下の点につきましてお答えください。

- (1) 糸魚川市における20～39歳女性人口の推移。
- (2) 出生数と出生率の推移。
- (3) 若者の定着数の推移。
- (4) 企画主幹を新たに任命し、人口対策を強化するとのことですが、新たなプランニングはどうするのか。
- (5) これまで行ってきた人口対策関連施策を整理統合し、「イトヨ・プラン」として分かりやすいループ式に再整備できないか。イトヨとは糸魚川の名前に由来するという説もあり、海から生まれた川に帰り、メスと出会い、オスが巣作りをして、産卵後はオスが子育てをする。育った稚魚は、海へと出ていき、成長すると再び生まれた川へ遡上するという特性を持った魚であります。
- (6) 女性の地元定着促進のための女性の地位向上・雇用環境の整備の施策。
- (7) 婚姻件数の推移と独身率、出会いの場づくりの強化。

(8) 若者向け住居や空き家活用策。

(9) 出生数向上のためのお祝い金制度や育児支援制度の拡充。

(10) 限りある財源で福祉を充実するためには思い切った民営化と産官連携推進を図るべき。

(11) 限界集落対応の必要性和コンパクトシティへの可能性の模索を行うべきではないか。

(12) 人口動態の現状を数値化して、糸魚川版人口白書の作成し、相互理解のもと、産学官一体となり傾向と対策を研究すべきではないか。

以上、「30年持続可能なまちづくり」「4万7千人の人口維持」「日本一の子どもづくり」等の公約実現に向けて、その具体策と推進策をお示しください。

以上で、1回目を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、国勢調査によりますと17年は4,354人であり、22年は3,906人となっております。5年間で448人の減となっております。

2点目につきましては、前年の10月から9月までの出生数は、人口移動調査では17年度は325人、25年度は281人であり、22年度から減少傾向にあります。

また、人口1,000人当たりの出生率は、17年度は6.1人、24年度においても同数となっております。合計特殊出生率は17年度は1.39人、24年度は1.65人となっております。

3点目につきましては、地元高校生の市内就職者数は25年度までの5年間は60人から78人で推移し、卒業者のうち市内就職者数の割合は60%前後で推移をいたしておりましたが、25年度は70%を超える状況となっております。

4点目につきましては、今年度、新たにプロジェクトチームを設置し、現在進めている施策の見直しや、新規事業の調査検討を進めてまいります。

5点目につきましては、少子化、子育て支援事業や、移住、定住事業を実施しており、ホームページ等でわかりやすく周知してまいりたいと考えております。

6点目につきましては、ハッピーパートナー企業の登録を促進しております。

一方、中小企業においては、育児休業制度等の活用が進まない現状ですが、今後も企業や労働団体等のご意見をいただきながら、新しい施策の実現に向け研究してまいります。

7点目につきましては、婚姻数が17年度は208件、24年度は165件で43件の減となっております。未婚率は、22年の国勢調査によりますと、30代男性が42%、40代男性が29%であり、30代女性が22%、40代女性が10.9%となっております。

また、出会いの場づくりについては、引き続き、ハッピー出会い創出事業を行ってまいります。

8点目につきましては、18年度に梶屋敷地内において、若者世帯向け公営住宅6棟を建設しております。また、空き家情報提供制度により市外からの移住の促進や、市民の住宅確保の面で一定の活用が図られているところであります。

9点目につきましては、子ども・子育て会議の中で検討してまいります。

10点目の保育の民営化や産官連携推進につきましても、同会議で検討してまいります。

11点目につきましては、高齢化率の高い集落においては、引き続き行政支援が必要と考えており、持続可能なまちづくりに向けて調査研究してまいります。

12点目につきましては、統計資料を市民や企業に公開していくことは大切なことと捉えており、公表してまいりたいと考えております。

また、雇用対策といった課題への対応など、必要に応じて産官学一体となった取り組みを検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくごさい申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

ご答弁ありがとうございました。

市長、率直な話、今回、この日本創成会議の発表を受けて、これを市長としてどのように受けとめたのか。大変周辺の首長の皆さん、危機感を高めていらっしゃるということなんですが、米田市長の率直な感想といましようか、お聞かせをいただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答ひいたします。

その情報を受けたときに、私は地域医療を思い出しました。我々の地域は周りの都市と離れているわけでごさいまして、我々の地域、我々のふるさととは、やはり全てが完結するまちでなくてははいけない。医療もそうでごさいましようし、全てのことがそういう形であるわけでありまひす。しかしながら、それが全て経済環境もそのとおひ、この人口の数で賄っていけるかという、なかなか難しい部分もあるわけでありまひす。

そういったことを考えたときに、地域がこれから存続するには何が大事。やはり経済活動や、また、福祉制度はしっかりと充実させていかなくてははいけない部分があるわけでありまひすが、そういったところを考えたときに、非常に厳しい環境にあるというのを感じたわけでありまひすが、それをどのようにして残していくかというのを、これからしっかりともう一度、我々は今、そういう方向で進めておるわけでありまひすが、北陸新幹線という全国にもまだ3桁にない駅の数であるわけでごさいまして、そういうチャンスに我々はいかに、今もいろいろの課題をそこで明確にして、消滅にならない地域にもっていかなくてははいけないというのを改めて、その中で感じさせていだきまひました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私は今回の発表を見て、1つには、今まで合併してこなかった市町村に対する強烈なプレッシャーになるんだろうと思いますし、道州制の論議に拍車をかけるための、底辺にはそういうのが流れているんだろうという感じもしておりますが、またもう1点には、米田市長がやっぱり今回公約で挙げた30年持続可能なまちづくり、このことなんだというふうに私は思いました。

やっぱり今やらなければ、今すぐやって何かの効果が出るという問題ではないんですね。けど今すぐやらなければ、30年持続可能なまちづくりはできないんだと。これはやっぱり米田市長、いい公約だったと思うんです。

今はじゃあ4万7,000人キープするっていう、既に4万7,000人を切つとるじゃないか、これは市長、どういんだ、責任とれなんていう気はないんです。今こそ知恵を出し合って、力を出し合って、やはり市民一丸となって、我がふるさとをどう守っていくのかというスタンスに立つべきだというふうに思うんです。そういう意味ではこの考え方、市長の公約につきましては、私は支持いたしました。以後は具体的にどう進めていくか、これをやはり行政の皆さんが一体となって、さまざまなプランニングをしていただきたいというふうに思います。

そこで1点目なんですけれども、やはり今回、細々とした数値、これはこの数値を聞いて気づいていただきたい点がたくさんあるんですが、この数値を見て、これは昨日までの答弁の中でも人口対策戦略プロジェクト、市内の中でつくっていかれるということでありましたが、こういったデータをどのように生かしていくか。また、やはり人口動態の白書の必要性、前は、そこまでの考えはないというご答弁でありましたが、やはりここは先ほど市長が言われたようにデータをきちっとして、何に対してどうするのかと処方せんをつくるためにも、やはりこうした白書が必要だろうというふうに思うんですが、その辺につきましていかがでありましょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

先週末の一般質問の中でもお答えしておりますけれども、今回のこの日本創成会議の数字そのものは、突然出てきたということでもありますけれども、実はそうではなくて各自治体の首長さんも、このことは薄々は感じていながらも、こういった数字を目の前に並べられると、やはりその数字の訴える力によって、さらに危機感を増しているというのが、全国的な自治体の受けとめ方だと思います。

今、人口白書のお話でありますけれども、人口白書というものについてつくらないと言っていることじゃなくて、やはりこれらの厳しい数字を行政だけでなく企業、あるいはまた住民の皆さんからもしっかりと理解をしていただくという行政の働きかけが、当然必要でありますので、言葉にこだわらなくても、やはり公表して、協力を求めていくということは、していかなければならないことだというふうに思っております。

そしてやはり今回の日本創成会議で示された、大きいところは1番目にご質問の20から39歳の若年女性が減っていくということと、もう1つは、大都市圏への社会的な人口移動だと。大きくは、この2つを何とかしなければとめることはできないし、減少を抑制することはできないというふうに、今回の日本創成会議のリストは、そのようなことを訴えているというふうに受けとめてお

ります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

今回、消滅可能性都市ということで指定をされた1つの市町村として魚沼市があります。魚沼市は全回の新潟610でしたか、ニュースの中でも特集されておりましたが、これはやはり同じように2040年に、60%の若い女性が減少するということについて、まず、人口担当課を設けた。そして、その人口担当課では何をやったかという、やはりデータを数値化して、市民にその危険性というものを認識していただく。そしてさまざまな施策を展開していくということですよ。

例えば、今回も担当課の皆様からいただいた人口動態の数値を見ますと、総人口にしましても、合併時から今日まで5,054人が減少した。能生地区では1,362人、糸魚川では2,647名、青海地区では1,045人が減少。これは12年後に、4万人を割り込むという危険性をあらわしていますよね、現状までの年間500人から600人が減少し続けていった場合。

また、高齢化率もそうです。平成17年の合併当時は30.1%が、現在では35.3%です。これも5年後には、糸魚川市として40%を突破する計算になってきます。能生地区では、現在37%ですから約3年後、糸魚川市は34.4%ですから6年後、青海地区、36.2%ですから、こちらは4年後に、この40%を突破するという超高齢化時代に入ってくるんだということなんです。

そこで今回、私がお聞きしました数値の中から若者の定着数というもの、それから結婚に対する考え方、そしてどのような処方せんが必要なのか。出生率を上げるための、この辺の数値の緊急性が読めるというふうに思うんですが、その辺についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

議員ご指摘の3点については、これまでもいわゆる人口減少対策という対策の中での主要な論点であるというふうに捉えて、これまで施策を展開してきたところであります。

やはり1つは、雇用の場と若者の定着という場面を捉えても、これは切って切ることのできない関係であります。その次にやはり出てくるのは、未婚率が国に比べれば3%から4%ぐらい高いです、年代によって違いはあるんですけども。ところが女性のほうは、むしろ県、あるいは国よりも未婚率は低いです。こういう現象があるということは、女性の結婚年齢層は低いということにもなってくるわけです。もろもろこれらを考慮しながら、これまで施策を展開してきているところがありますけども、今ほどのご指摘の数字をなかなか抑制、いわゆるプラスに転じることができないというのが、今の糸魚川市の現状であると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

もう1つ、糸魚川の人口動態の「糸魚川のすがた」等では、少し読みにくい部分があるんですが、若者の定着率を高校卒業生の地元就職率ということに照らし合わせて計算した場合、どのような推移になっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

1回目の市長の答弁の中でも、高校生の管内就職率につきましてはご報告申し上げたところでありまして、24年が卒業者が414人、そのうち70名が管内就職をしております。25年度では414人の同数が卒業しておりますけれども、管内の就職者が78名ということで、管内の就職率でいきますと71.6%、これは平成21年度と同じぐらいの数になっておるわけでありまして、そのほかに高校生の管内就職、プラス毎年、がんばれニューフェイスを開催させてもらっておりますけれども、ことしの春、やらせていただきました、がんばれニューフェイスの集いには122名の参加がありますので、高校卒業以外の方の数も、そこで約40名近くでしょうか、あるということになっておるわけでありまして。

ただし先般、高校生の就職内定率が新聞報道されまして、全国平均では85%というふうな数字が報道されたわけでありまして、それと見比べますと、まだ低いというふうに捉えておりますので、25年が78名で、就職率が71%ということで、喜んでおられんというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これは喜んでる場合ではありませんね。今、課長が言われた部分につきましては、管内就職率ということを考えていきますと、平成19年が45.9%だったのが、平成25年には71.6%。

市長、これは前にも申し上げてきましたが、高校の卒業生たちが都会志向から地元志向へ変わってきてるんです。本当に、ここ数年でありますけれども、平成21年度から顕著に地元に対する就職ということが出てきてます。これ逆に言えばチャンスなんです。それで今言ってるように、就職希望者から糸魚川に何人残ったかとやれば71.6%なんです、卒業総数からいけば18.8%しか残ってないんですよ、この辺の数字を追いかけていく。

いいですか。ここの中でいきますと、今回いただいた資料、19年から25年度までの卒業総数が3,030人、そのうちの管内就職者数が486人なんです。この5年間の中では、2,544人が地元を離れているんです。担当課にお聞きしますが、じゃあUターンの皆さんの状況というのは、できていますか。大学、専門学校、就職等で糸魚川を、地元を離れた方たちが帰ってきているかどうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

先ほど、がんばれニューフェイスに参加の数と、高校卒業後、管内就職の差がUターンだろうとは思っておりますけども、それぐらいの分析でありまして、突っ込んだ分析は今のところ持ってないという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

このUターンの追跡調査につきましては、以前にも要望いたしました。やはりプライバシーの問題だとか何とか、情報開示の問題がいろいろあると思いますが、やはり卒業時に登録していただくということですね。それは父兄に対してでも、お子様に対してでもさまざま情報提供をして、地元に戻ってもらうということ。それからやっぱり転入・転出のときに、何らかの手を打って、Uターンの状況を把握する必要があります。

だって市長、前にも言ってますけれども、年間500人、600人も減っていく中で、どうすれば若者を残せるかとなると、それでも400人ペースで、毎年、卒業生が糸魚川の子供たちですよ。市長が先ほど言ったように、手塩にかけた子供たち。この子供たちを、ただ指をくわえて外へ出していく手はないじゃないですか。414人のうちの18.8%しか残ってないんですよ。だったらここはやっぱり追跡して、これを50%、60%と上げていくことです。誰が糸魚川に来てくれますか。やはりふるさと糸魚川という意識の方々が、ここへ戻ってきてくれるんだ。それをやっぱり強く認識して、これは絶対やってください、追跡していく。

それから、この恐ろしいのが、7年間の数値で見ますと地元に残った若者、男性311人対女性175人ですよ。これはやはり今後も結婚難、結婚問題ということが長引くということ承知をしている数字だと思いますが、この結婚難、結婚問題については、いかが認識されておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

先ほどからも申し上げているところでありますけども結婚難、未婚者の糸魚川の実態を今ほど数字で申し上げたところですけども、やはり1つの大きな要因だというふうに思っています。結婚することで家族ができ、もちろん、その前には経済的な基盤ということで、仕事も当然あるわけですけども、そういった地域が、やはり人口を維持するという地域になっているということでありまして、結婚支援という部分で、行政もいろんな角度から試みておるところでありますけども、やはり行政だけの取り組みでは、もちろん力が足りないわけでありまして、いろんな形で民間からもお手伝いをいただいてという取り組みをして現在に至っている。

19年度からハッピーコーディネートとか出会い創出も含めまして、民の力をお借りしながら取り組んできた結果でありますけれども、成婚に至ったケースとすれば23件、それから出会いの場等も二十数回にわたる回を経ながらカップル誕生に至っておりますけれども、最終的に成婚に至っ

たケースというのは、そのうちのわずかなケースであるというのが今の実態であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

齊藤課長とは、かつてお見合いイベント「なりめき」なんていうことを、若者ふれあい事業と一緒にやってきた。これは1回のパーティーで22組ぐらい、全部平気でできてきましたよね。そして、その後もやっぱりたくさんの方々が結婚まで結びついてます。やってることは地味なんですよ、婚活やるには。

先ほど言った魚沼市のパターンだと、尾瀬こんというふうにして、尾瀬の観光地をメインにして市内外に対して募集をかけたら、応募総数が定員をオーバーするほど来たというんですね。仕掛け方だと思いますけど、ちょっと最近、地味だと思いますよ。これもっとしっかりやっていただきたい。

それから結婚数の推移なんですね、婚姻数の推移。これは平成23年までは大体年間200組から190組、悪くても180組台で推移してきたのが、平成24年度以降、165組、そして158組と著しく落ちてきてるんですね。これは一過性の問題じゃないと思いますが、どのように捉えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほど来、話になっております、若い世代の人口数が減っているという状況があります。特に、20代、30代の若い女性が減少している傾向が顕著であります。そのような状況を背景に、婚姻数も減っているというふうに捉えております。したがって、そのような状況は一過性ではなくて、今後も続くという予想ができるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これでさっきの合計特殊出生率について、もう一度ちょっとご説明ください。先ほどちょっとメモをとりきれなかったので、ちょっとお知らせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

私のほうからもう一度申し上げます。

17年度においては1.39です。24年度は1.65、まだ25年度の数値が、県と国は発表に

なっておりますけれども、市町村の発表は、これからということになっております。現状です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

合計特殊出生率については、かなり上がってきてるんだというようなこと、数値的には見えますが、率的には見えますが、やはり産まれてくる子供たちの絶対数が、少ないというところがありますよね。

市長、ここまで細かくデータを聞いているのは何かと。市長は先ほどの田原議員の中で、いや、我々はもうほかに負けないぐらいやってるよ、頑張ってるよというふうに言われましたけれども、数字は明らかに下降を。このままでは先ほど言ってるように、消滅可能性都市になる可能性の危険性をはらんでいます。すると市長、今までどおりの努力ではだめだということが、ここでもう1回やっぱりもとへ戻って、今までやってきた事業を見直すとともに、新しいプランニングをすべきじゃないかというのが、ちょっと長い前振りでしたが、今回の私の考え方。

じゃあ古畑、示してみろということで、前にも市長や副市長にも言われたことがあるんですが、イトヨ・プランはどうだということで、今回、これちょっとつくってみました、イトヨ・プラン。これにつきましては、これを説明するだけで2時間ぐらいかかってしまいますが、そんな大した内容ではありませんけども、男女の場の創出、それから愛の巣づくり支援事業、子育て支援、日本一の子育て支援、それから雇用の場の創出、また男女の出会いの場へと戻っていく、これがいわゆるループ式の制度の仕方。これは今回、私が要望する子育て支援金であるとか、子育てのさまざまな補助事業もちょっと加えてはありますが、基本的に市がやっていることを、こういうふうにしてまとめればいかがか。

市長、これ見た感想はいかがですか。資料はきょうの朝、市長及び担当課の皆様配布していただきますようお願いしたんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり先ほど田原議員のときにもお答えさせていただいたんですが、1つ1つは頑張ってるというのが大事で、お示しすることも大事なんですが、やはりトータルでどうなんだというのが、今、議員ご指摘のところだろうと思っております。それを見ないと、要するに一部分においては、自分のところと関係ない部分かもしれないけれども、全体的には、こういう1つの流れがあるんだというのを、わかってもらうことが大事なのかなと。我々は今、各事業を、それは全て人口増につなげたり、若者定着に何とかしていきたいというような思いの中で進めておるわけですが、それがそういう問題の解決のためだというような見方がされてなくて、ただ目先の1つの事柄だけの解消に捉えられているわけですから、例えばよそへ出た子供たちにも伝わっていかないだろうと思えますし、また、ここに住んでいる人たちの危機意識にもつながってないのだろうと思うわけでご

ざいまして、非常に1つのお示しの仕方としては、やはり問題解決の1つの考え方なんだよというのは、非常に強く伝わるものではあると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

少子高齢化問題で一くくりにするんじゃなくて、今回はもう完全に若者定住促進事業。若者が定住できる魅力あるふるさとづくり、糸魚川市若者定住促進事業イトヨ・プラン。もちろん、お年寄りに対する福祉の充実、さまざまな問題がある。ただ、それとはちょっと切り離して、先ほど言うデータのなものからいって、今、若者が定着しなければ、糸魚川市のいわゆる存続はないんだという危機感の中から、やはり今後はスタンスといたしまししょうか、見方をもう1つ、若者定住させるんだというところに私は切りかえる必要がある、切りかえるというよりも、今までやってきましたからね、もっと前面に押し出す必要があるというふうに思っております。この辺の事業名を明確にして、市民の皆さんにその必要性を認めていただく。

このイトヨ・プラン等でいきますと、イトヨ・プランは出会いの場の創出から結婚、出産、子育てから働く場の提供まで、さまざまな場面でサポートするプランです。どうでしょうかね。これ若者定住事業ということで、ぐっと前面に出されればいかがかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員のご指摘の点、そして今なぜそれをやらなくちゃいけないかというところも踏まえて、やはりわかりやすく進めていってみんなで市民が、前段でのお答えでもさせていただいたように、なぜ今、糸魚川はチームワークよく、チーム糸魚川を叫ぶのかというところと一緒にわけございまして、ただ単に、やろうよと言ってる1つの事業を展開するだけじゃなくて、そういった事柄をもうちょっと理解していくための、やはりいい1つのツールになるかと思っておりますので、そういう示されたことをどうやっていけばいいのか、進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、行政の皆さんはさまざまな知恵を出して、各担当課ごとに頑張っているんですね。ただ、わかりにくいですね。チーム糸魚川もこの後、伊藤さんが質問されるみたいですけど、本当にわかりにくい。何というのか、やっぱりそれぞれの事業が繋がってないんですね。これは今度、皆さんがつくった糸魚川市人口減少対策プラン、夢を育むまちづくり、このまちでよかったって出ますが、これもインパクトないですね、どこのまちのことですかってなるんですね。

先ほど言ってるように、このイトヨみたいに、まずイトヨって何だっていうところから始まって、

へえ、そんな立派な魚がいるのか、そしたら人間も負けてられんねっていうようなところから、じゃあ子育て、旦那も協力しなさいよというところも、やっぱりどんどんアピールとしてはつくっていかれるわけで、これはプレゼンではありますけどね。

それから、この中でも提案いたしましたが生育成金、もう1人目から10万円、2人目、20万円、3人目以降は50万円。それから、ふるさとに就職していただければ1人10万円の就職祝い金、家を建てる時は、また特別な補助金を出していく。このようにちょっと札びら攻撃でもありますけれども思い切った支出というものの、補助に対してやはり出していくという考え方はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

旧糸魚川市で、3子に50万円という制度をやったことがございます。当初は非常に効果があったんですが、徐々に下がってきて見直しに入ったわけでありまして。しかし言われるように、ただ単にやってるよ。よそから言われて、こういう対策は、ここでこういうことをやってますよというだけのことではいけないと思うわけでありまして、やはりやるからには効果があるものにしないといけない。だとしたら、その効果があると思っただけのような金額であったり、制度でなくてはならないと思うわけでありまして、我々は今、そういう補助金であるのか、支援金であるのか、また、制度をどのようにしていくかというのを、やはりより明確にするべき。先ほどのプランも同じなんですけど、そういうことをやはりしっかりして、住んでる人たちだけでなく、ふえてもらうには、よそからも帰ってきていただくことが大事になるんで、そういったところを、いかに明確にするかということが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

やっぱり市長、そこなんです。日本一の子どもづくり、キャッチフレーズはいい、けど目玉商品がないんです。いや、本当に高校生までの医療減免だとか、定額だとか、無料化だとか、もうやってるんですよ、けど、インパクトがない。

やはり子育て成金復活、今度は第1子からあげます。出生率1人2.8%まで、0.8%まで上げても糸魚川の人口はふえませんよ。2人じゃだめなんだわ、確実に3人産んでいかなくちゃならない。この辺については、もうこの間、糸魚川に来られた泉田知事もやはり同様に、後々子供たちが納めていただく税収を考えれば、1回に100万円、200万円出してもいいじゃないかということ、今、県議会のほうでは少し難航してるようですが、やっぱりそれに先駆けて糸魚川はいくんですよ、いけば県が補助金を出してくれる。

先日発表されました骨太方針の中でも、少子化対策への予算配分を大胆に拡充するとしています。安倍総理も人口急減、超高齢化への流れを変えるためには、結婚、妊娠、出産、育児への切れ間の

ない支援を行っていくことが重要だとしてるんです。だから制度をつくって、やるっていう姿勢を今つくって、プランニングをしてください。そして国や県に対して要望するんですよ、予算を。糸魚川の限られた財政の中で、大盤振る舞いできるわけないっていうのは私もわかっています。だから、これはまず国がそういうふうな制度資金を拡充したときに、誰よりも先に行く。だめな場合は、最低でもここまでは糸魚川市は力を入れるんだというところを、やはり持つてることでしょうね。じゃあなきゃ何のために、今ごろプロジェクトチームを検討しとるんですかでしょう。先ほどの答弁ではない。ずっと前からわかっていたことを、今ごろけつに火がついて頑張らないけなくなった。

そうじゃない。やっぱり高齢化については、自慢じゃないが先進地の糸魚川ですから、やっぱりさすが糸魚川は考えているんだ、これでさすがに日本一の子どもづくりのための施策なんだというものを、今、目玉が足りないという、市長、やっぱりそこを頭に入れておいてください。

それからもう1つ、資金不足の中でやる1つのパターンとして今回は民営化、産学官連携等も出しましたが、私が非常に今回おもしろいなと思っているのは、キッズランドの取り組みですよ。企業ポリシーにおいて、来たお客さんに対するサービスでありますとか、安心して遊んでいただけるといところから始まって、今は糸魚川市の制度の中にも、補助金が出るようなところまできておりますよね。休日保育サービス。ここのおもしろさは、企業がリスクを負ってるんですね。決してこれは黒字にもなってないですし、どっちかというとも累積赤字のほうが大きい。けども社会貢献というものを目指してやってる企業なんだというんですね。

こういった企業は、今後、例えば建設業界だとかそういったところも含めて、このキッズランドの取り組みを大事なモデル事業として、企業のほうへ。だから必要な経費だけ出すというんじゃないで、糸魚川市も出しますけど、企業の皆さんも出してくれませんかというような新たな何といいましょうか、制度。働く女性のための支援制度みたいなのを含めて、これで行政と企業が1つになった子育て制度というのをつくれないかと。これはもうモデルがここにあるわけですからね、これはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

現在も、さまざまな子育て支援制度事業をやっております。その中で、現状があるようなわけですが、今、ご提案のような趣旨も1つの手法としては考えられると思っておりますので、それ以外のものも含めまして、庁内において子育て支援の仕組み、あるいはそれ以前に若者の定住というのが、先ほど来お話があるように重要なポイントでございます。それらを含めて人口減少対策という取り組みの中で、古畑議員がお示しのイトヨ・プランの考え方も、見せ方としては大変参考になる部分があると思っております。

いずれにいたしましても、いろんな皆さんの知恵をいただきながら人口減少に取り組んでいくことが、とても大切だと思っております。ぜひ古畑議員のアイデアも1つの考えという中で、ご検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（樋口英一君）

昼食時限のため13時まで休憩いたします。

〈午後0時03分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

それでは今度、制度についてお聞かせをいただきたい。

これは平成25年にできた子ども・子育て支援新制度、いわゆる俗に子育て関連3法と言われますが、この内容をかいつまんで、どんなようなものなのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

この新たな子ども・子育て支援制度でございますが、1つは、都市部における待機児童の解消でございます。それから質の高い幼児期の学校教育、保育を総合的に提供するってということで、特に認定こども園がありますが、認定こども園への移行を今までよりもスムーズにして、その設立を増加させると。もう1つは都会ばかりじゃなくて地域でも、その保育が進むわけでございますので、地域に密着した例えば小規模保育所とか、あるいは事業所内保育、あるいは地域と連携してやる放課後児童クラブとか一時預かりとか、そんなようなことも充実させて、総合的に新しい制度を発足させようと。これは消費税の増税分を国が扱っていくということで、進めてるところでございます。以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これは児童福祉法の改正であるとか、子ども・子育て支援法だとか、法的な整備がされてきた。これは何をやってる、何を意味するかというと各市町村、自治体単位で、やっぱり今後の子育て支援等について計画を策定しなさい、こういうことを示されているんですね。そしてさまざまな規制緩和ができてきた。いわゆる従来は不可能と言われていた制度も、それぞれの自治体の判断によってできるようになった。

それで1つの例として、お隣の上越市では24時間保育というのを実践してるんですね。先ほど

キッズランド、糸魚川のヴィラオレッタの2階にあるキッズランドの例を出しましたけれども、あれの拡大版といいましょうか、それらについての情報は入っていらっしゃるでしょうか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

上越市では、24時間保育をやっているところが2カ所ございます。これは民間の保育園に委託しておるところでございます。ここはいずれも認可保育所でございます、それに伴う延長保育ということで補助金も出て、認可保育所ですから国、県、市町村からの措置費もあるということで、そういう特定財源を利用して経営をされておるといふふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これは上越ファミリーヘルプ保育園、それから株式会社リボーンと組んだ門前にここ保育園、これがその2カ所になります。

市長、今やお母さん方の情報網というのも大変すごくて、あそこの保育はいいよって、あそこのほうが子育てが楽だよということで、こういった制度を上越市が取り入れたことによって糸魚川からも、じゃあ子育ては上越へということで、上越市のほうへ転出していった。今後、やはりこういったさまざまな福祉制度、それから、それに伴う財源措置というのが国や県からされていった場合には、行政同士のサービス合戦になるというふうに思われます。これらについての対応というものは、果たして糸魚川は十分でありましょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

十分な対応かとか指摘のことではございますが、十分かどうかという協議なり、調査はしたことはないわけではございますが、我々まずは今、糸魚川で働いておられるお母さん方に対しての支援は、何があるだろうというような形の中で拾い出して、その部分について今取り組んできてるわけではございまして、十分かという、ちょっとそこまでは断言はまた言えないんですが、我々は今、ある程度の対応はしてきたぞという部分は思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

きょうは長々とやらせていただきましたが、市長、やっぱり従来どおりの取り組みではだめでしょうね。今後、新たな施策はどんどん出てくるから、先ほども言いましたように私どもも1回素に戻して、それからまた、じゃあ今後のニーズをどう捉えていくか。お母さん方、いわゆる出産を控えたお母さんも含めてアンケート調査等をやっけてこられたと思いましたが、これからやっぱり新たなアンケート。それから国の動向、県の動向、他市町村の動向をみて、ぜひことしからでしたかね、策定するというその人口対策の問題、それらについて十分反映をしていただきたいというふうに思うんですね。

今後、介護負担や国民年金などの負担増は、減少にさらなる拍車をかけるという。いわゆる財政規模の高い大都市ほど介護保険や国民年金の掛金が安く、高齢化に悩む糸魚川市のようなところや、お隣の小谷村、白馬村、それから朝日町のように小規模自治体ほど高くなってくる。こういった小さな負担金の増減に対しても、子育て世代は敏感であるというデータも出ています。

したがって、ここは議長にもお願いしてるところもありますし、市長にも、これはもうそういった大きい問題は、国での一元管理運営を求めるべきである。これは予算委員会でも言わせていただきましたが、これをしないと東京一極集中の是正にはなりません。

安倍首相は、今回、地方に対して手厚くさまざまな制度を実施するために、制度の中に地方の活性化のための特別な組織をつくらせてます。当然、全国の自治体にも、どのようなことをされたらいいかというアンケートなり、要望を聞く場面が出てくるんですが、市長、ここを強く訴えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに今、議員ご指摘のとおりだと思ってます。私は今進める中において、ここ1、2年でなったわけでございません。我々はやはりほかより、より子育てしやすい、また、ここが育てていく、また、行政も地域も一緒になって、育てていく子育て環境をつくっていかうということで進めてきたわけでありまして。

当然、我々が考えて始めたころには、ほかにもない制度というかランクだったものが、今、また逆にそれを見ながら、追い越していくやつがあるわけでございますので、当然、地域間競争になっていくわけでありまして。それを幾らやっても、とどまるところはなくなっていくんだらう。そうなってくると、非常に小さいところほど、先に倒れていく部分が出てくるんだらうと思うわけでございますので、我々は自分たちのところをまず先にやるんですが、そういったこともこれからの中で、やはり国が全体でやらなければ、大きい流れが1つ流れている中で逆流しても、そんなに長くはもたないだらうということを見ると、やはりこれは国、県に挙げて、そういった今、日本全体が存亡の危機のところがあるらうと思うわけでございますので、我々もその辺を、ただ単に漠然とした言い方ではだめだらうと思うわけで、どういった点がだめなのかというのを、市民の皆様方、住民の皆様方と一番接しておる基礎自治体というのは、やっぱりその辺が一番詳しいんだらうと思いますので、今、そういった形もとらなくちゃいけないだらうということも感じてるわけでございますので、

そういった方向で取り組んでいきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

やっぱり東京や大都市の一極集中を防ぐためには、こうした小さな自治体が不利にならないように、それがハンディとならないような国の制度化、これは糸魚川市長だけではだめですから、やはり先ほど言ったように市長会だとか、町村会だとか、やっぱり規模の小さいところが声を大にしていかなければ、これは直らないと思えますが、これはもう絶対にやっていただきたいんで、ぜひよろしくお願いをしたいというふうに思っております。

それから先ほど来も出ておりましたけれども、やっぱり若者向け住居や空き家の対策ですよ。人口減に対して世帯数が増加してるんですよ、今回のデータを見ますと。今後も老老、いわゆる老人の2人暮らしやひとり暮らし、私、中央区、糸魚川のだ真ん中、駅の真裏に住んでいるんですが、私の周りにはもう全部空き家だらけです。そこで、こうした空き家の対策、もう町中、いわゆる郊外型の空き家対策、そしていろいろほかの議員もおっしゃっているように中山間地型というふうに分類して、町中暮らしと田舎暮らしなど環境の整備がやっぱり必要である。これは富山県の市町村でも多く取り入れてますが、空き家を使った町家暮らしや田舎暮らしを体験させるということですよ。

それから若者向けアパートを町中に建設、活性化と若者の出会いの場とする。それから新婚用のハネムーン住宅なんかも建設したらどうか。そんな金ないよって絶対言うと思うんですけども、これは市の単独ではなくて、いわゆる業者につくらせるんですよ。糸魚川市は、そこに入る若者やハネムーンの皆さんの家賃に対して補助を出す。要するに経済的にもアパートや住宅を建てると。それを借りる保証ということで、糸魚川市のほうが家賃を補助するから能生や青海、糸魚川、それぞれの中心地の中のいい場所で若者にも全部住んでもらって、まちの活性化、消費拡大、そして、その中で出会った若者たちが結婚していくというようなストーリー、これどうでしょうかね、お考えいただけないものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今までの一般質問の中でもお答えしてまいったわけですが、やはり需要の中において農家民泊とか、やはり農村で住んでみたいというような声もあったわけでありまして。また逆に、今言ったように町家の中で住んでみたいという、これ要望があるのも事実であるわけでありまして、現に京都の中でも今住んでおられて、そこで生活し、また経済活動もされてる方々もおられるわけでありまして、我々の糸魚川においてもそういう雰囲気、これは糸魚川のまちの中だけではなくて青海の中心街の中、能生の中心街の中においても、そういう雰囲気もまだ残ってるわけでありまして、それをいかに魅力あるものとしてやっていく部分をどのようにしていくかというのは、や

はり我々の考え、また、それで仕立てていって、それを取り組んでくれる持ち主の方々や建設会社さんと、少しそういった懇談会をしながら、どのような制度ができるかというの、考えていかななくてはならないなと思っております。これは今言ったように町家だけではなくて、農村、または山村、そういったところも捉えながら考えていかなくちゃいけないかなと、今、捉えてる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

一時住むという場所にもなるんですね。ご存じのように、ふるさと就職支度金等でUターンを希望すると、糸魚川に住所がないので、そういった制度を受けられないんですよ。あれは盲点で、前にも市長にもご相談したことがあるかと思いますが、Uターンしたいという夫婦が来る。家を探してくれ、こういう制度があります、こういうお金が借りれますよってというふうに、不動産屋もいろいろ紹介をするだけけれども、糸魚川に住所がないからこの制度を受けられない。そうですよね、どなたかちょっとその辺、確認をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

空き家の関係で、例えば住宅リフォーム、空き家バンクを通じて住宅改修のリフォームの手続きをしたいという方については、まず、住んでいただくというのを原則にしています。1年間を経過すると、その段階で1年の市内在籍を経て補助金が交付されると、そういう仕組みが住宅リフォームの中にあります。

今、お問い合わせの件はまたそれとは違って、ふるさと就職に対するというご質問でしたら、また担当課長のほうから答弁いたしますので、よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

ふるさと就職資金の最近の利用状況でありますけれども、24年で66件、25年で48件の利用を受けております。新規の学卒では25年では26人、U・Iターンの単身では21名というふうな状況になっておりまして、特に住所要件で問題が出ているというふうなことは、担当のほうからちょっと聞いてないというところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

細かい話をすると、ちょっと時間がなくなりますから、U・I・Jターンについては、もうちょ

つと制度の内容を見直していただきたい。とりあえずそういう問題はないというふうな担当課の認識であります。これはまたちょっと事例を挙げて、今度ゆっくり担当課のほうとお話をさせていただきたいというふうに思っております。

市長、本当に江戸時代の入り鉄砲と出女ではないんですが、やっぱり地元はどう女性を残せるかということが、もう今後、大きなテーマになってくるというふうに思っております。

本当はきょうは、その一方、限界集落の対応の必要性和コンパクトシティへの可能性というところを、きょうはちょっと残してしまいましたけれども、今はとりあえず若者定住促進事業をやっぱり推進すること。そしてさまざまな制度ができてきて、国の助成金も今見直されて大きく拡充されようとしている。糸魚川の現状のやり方でいくと、決して人口増にはつながないという。こういう状況、データを数値化して、しっかりと認識して。だから今の薬で効かないわけですから、新たに新しく強い薬を、やはりどうすればカンフル剤になるのか、どうすれば万年人口減少というこの状況に歯どめをかけられるのか。

これは米田市長の3期目の大いなる命題でもあらうと思えますし、私、それから私の後ろにいらっしやる議員の皆さんも、それぞれの選挙公約の中には、この人口問題というものを取り上げた方々ばかりだと思っております。全市的に我が糸魚川市、我がふるさとが、30年後も50年後もやっぱり立派に存続すると。そのための施策につきましては、私も今後とも知恵を出してやってまわりたいというふうに思いますが、米田市長及び行政担当課の皆さんにつきましては、本当にふるさとの浮沈をかけて、一生懸命頑張ってくださいますようお願いを申し上げます、質問を終わります。

どうもありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。〔3番 渡辺重雄君登壇〕

○3番（渡辺重雄君）

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、交流人口拡大につなげる認知度向上対策と効果についてであります。

2040年までに自治体の半分が「消滅」という、「自治体消滅」推計が波紋を呼んでおります。人口減少による、地域内消費の減少で地域経済は縮小し、地域間格差の拡大も懸念をされま

す。このような状況を打開するためには、定住人口の増加策が基本であります。当面の対策としては交流人口の拡大による観光消費額で補うことも重要であります。

ただ、全国どこでも交流人口の拡大を唱え、観光地の見直しやイベントなど、地域内体制を整えたものの、思うように成果が上がらず、その原因として認知度の低さを挙げており、認知度向上対策に頭を痛めているのが現状です。

糸魚川市は、新幹線停車駅、ジオパークといったインパクトもありますが、選ばれる糸魚川市の価値を創造し、認知度向上に結びつけた仕掛けは大丈夫でしょうか。新幹線開業まで9か月、糸魚川市の現在の認知度はいかがでしょうか。

認知度向上に関する対策とその効果などを、主に5点の分野に分けて伺います。

(1) 新幹線停車駅、ジオパーク、イベントなどの売り込みと認知度についてであります。

新幹線停車駅、ジオパーク、イベントなどをつなぐことにより相乗効果も期待できるが、どのような仕掛けにより効果につながっているか伺います。

(2) 糸魚川市のブランドアップ対策についてであります。

地域ブランドは、「憧れのイメージ」と「地域」を結びつけて一体的に認識していただく必要があるが、今後のブランドアップ対策に関して伺います。

(3) 情報発信とシティセールスについてであります。

当市が持つ様々な魅力を市外に効果的・戦略的に発信し、認知度、好感度の向上を目指すシティセールスが必要であります。そのセールスの手法などについて伺います。

(4) 東京糸魚川会、糸魚川応援隊などの協力組織についてであります。

両組織は認知度向上対策としても、特定できる多数の方々におつなぎできる貴重な組織であり、現在の活動と今後の進め方について伺います。

(5) 東京事務所の役割についてであります。

ヒト、モノ、情報が集積する東京での、市の売り込み、人的ネットワークなど、戦略基地としての機能に期待しており、その役割に関して伺います。

2、競技スポーツの普及振興と行政のかかわりについてであります。

このところ、東京オリンピックの招致やソチ冬季オリンピックを通じて、スポーツへの関心が高まり、国の一体感や活力を醸成し、また、選手のひたむきな姿は国民に夢や感動を与え、活力ある健全な社会の形成にも貢献をしております。

当市においても、スポーツの振興により、青少年の健全育成をはじめ地域における連帯感を醸成し、地域社会の再生につながっていると考えます。

とりわけ、競技スポーツは当市のスポーツレベルと評価につながることもあり、普及振興を図り、地域の活力や交流人口の拡大にもつなげたいものです。

さらに発展させるために、総合計画、生涯学習推進計画によるスポーツ振興に関連し、主に3点について伺います。

(1) 競技力向上への取り組みと課題についてであります。

競技水準の向上、優秀選手の育成にはジュニア期からの養成が必要で、指導者の養成をはじめ、環境の整備が重要であると聞くが、各競技団体の組織強化や指導体制、施設整備などの取り組みと課題について伺います。

(2) 国、県大会、遠征試合等への参加に対する支援についてであります。

競技者の国県の大会、遠征試合等への参加に際しては、その経費は大変大きいものがあります。個人の名声と共に糸魚川の名も高めていただいている選手、役員の皆さんへの奨励金や参加費補助などの支援の充実について伺います。

(3) 優秀団体、選手、指導者の表彰・顕彰と広報、啓発活動についてであります。

毎年、各種の競技スポーツで優秀な成績を収め、糸魚川市のスポーツ振興に貢献している選手・団体を見受けるが、行政としての表彰・顕彰について伺います。また、普及振興につながる広報、啓発活動についても伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新幹線開業にあわせて糸魚川ジオパークにより、糸魚川市の特色ある自然を中心に、歴史、文化などを本市出身の人脈を活用し、情報発信してまいります。

2点目につきましては、他にはない糸魚川の自然や産物を、より魅力的に発信してまいります。

3点目につきましては、糸魚川の魅力ある自然資源や産物をインパクトあるイベントや、相手を明確にし、集中的に対応する考えで進めてまいりたいと考えております。

4点目の東京糸魚川会につきましては、今後も連携を密にする中で、引き続き糸魚川への誘客活動や、地元産品の販路拡大につなげていただけるよう、情報発信に努めてまいります。

また、糸魚川応援隊につきましては、糸魚川の魅力や情報を積極的に発信していただき、糸魚川へ帰郷、訪問いただけるよう取り組んでまいります。

5点目につきましては、田原議員にお答えしたとおりであります。

2番目の競技スポーツの普及振興と行政のかかわりのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、競技大会の開催、有名選手の招致、体育協会等の活動支援を行いスポーツへの関心を高め、競技力の向上を図っております。

課題は、優秀選手が進学や就職により市外へ転出し、市内の競技力の向上につながっていないことと認識しております。

2点目につきましては、体育協会では、北信越大会以上に出場する個人及び団体に激励金をお渡しし、市は、全国大会に出場する個人及び団体へ報奨金をお渡ししております。

3点目につきましては、市では毎年秋に協議会等で、特に成績優秀な団体及び個人を表彰しておりますほか、体育協会ではその功績をたたえ優秀指導者、優秀競技者として表彰しております。

また、広報については、全国大会及び北信越大会の出場者は、市ホームページの掲載や市庁内に掲示し、国体等の全国大会出場の際は駅前等に横断幕を設置し、市民に周知しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

1番目の1点目ではありますが、新幹線停車駅、ジオパーク、イベントなどの売り込みと認知度についてであります。

上越市では24年の秋に北陸、首都圏、関西圏で、4,000人を対象に認知度調査を行っておりますけれども、そのデータによりますと「上越市に行ったことがある」「市の名前は知っている」、これ合わせて80%の認知度ですね。それから「上越妙高駅にぜひ行きたい」、それから「行きたい」の合計ですね、これが52%、「行きたくない」「あまり行きたくない」が48%ということですね。長野一金沢間8駅中、上越妙高駅は5位ということですね。

ちなみに糸魚川のデータも出ているんですが、糸魚川駅は6位ということですから8駅中6位ですね。したがって、その7位、8位に飯山、高岡というふうにあるわけでございますが、ちなみに糸魚川の場合は「行きたい」が46%、「行きたくない」が54%というふうになつてくるんですが、このデータについてコメントをいただきたいというふうに思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

やはりまだまだ認知度は低いものと思っておりますけれども、ただ、大都市圏での46%という数字、逆に言うと何千万人という中で46%が行きたいというふうに思ってるっていうのは、それはそれなりの大きな数字ではないかなというふうにも思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから初日の田中議員の質問にも関連するわけですが、上越市では関西や北陸から県内への誘客の玄関口は上越市というふうなことを言ってるんですね。それから佐渡への玄関口、上越市というような売り込みが、ここへきてかなり活発なんですが、地理的にはやはり糸魚川市が玄関口というふうに、私は今でもひとつ何とかしなきゃならんというぐらいな気持ちでおるんですが、糸魚川市の場合、もっとやっぱりインパクトを出して対応しなきゃいけないんじゃないかなというふうなことを考えるんですが、この上越市に負けない売り込み、これ大丈夫でしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

上越市はご承知のとおり越五の国という形の中で、佐渡、柏崎、十日町、妙高市、そして上越市と、1つの連携しておるわけでありますが、そのほかには何があるかという、やはりカーフェリーをベースにしながらやっとなるわけですから、どうしても力を入れると思っております。

我々といしましては、今までのようなJRの状況と違ってきておるわけでありまして、同じえちごトキめき鉄道が間へ入ってくるわけでありまして、そういう中で、どういうふうに我々は対応していけばいいのかというのを考えるわけでありまして、非常にJR西日本と東日本の違いが、この新幹線ではあるわけでありまして、その辺をしっかりと我々の管理下であるJR西日本のほうに、そういった話をしております。関西圏から来るのは、やはりどうしてもうちが玄関口だろうという強い位置づけで地元と、要するに我々糸魚川駅を中心とするグループと、しっかりと連携をとってくれという話はさせていただいております。ただ、関東圏から来るやつが、やはりどうしてもJR東日本という中においては、上越妙高駅をベースにしてくるんだらうと思っております。

しかし、その接続の中でどちらが有利だという話を、これからまたやらなくちゃいけないし、有利なやはり商品メニューにしていかななくちゃいけないんだらうと思っております、その辺はしのぎ合い的なところもあるわけでありまして、我々単なる糸魚川市だけではできませんが、そういったJR西日本との連携、そして広域観光連携会議の1つの連携というものの中で、しっかりとやっていかななくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

具体的に関西圏からの誘客というのは、どういう状況なのかということですね。

それから大阪事務所、あるいは大阪駐在員の配置、一昨年ですか、泉田知事は糸魚川市も大阪事務所を出したらいいというふうな発言もありましたし、そうなれば県も協力しますよというふうなご発言も聞いておるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

1つにはやはり県の政策として、首都圏よりも関西圏に力を入れたいというのがあると思うんです。それはやはり上越新幹線の関係が、大きくあると思っております。そういう中で県として、ことし新潟県のアンテナショップを梅田のほうで開いております。当市の酒蔵も単独で、もう既にそこでイベントを実施しております。

当市としては、やはり新幹線の開業というのを考えると、大きなターゲットというのは首都圏に1つあると思います。季節的に考えると冬、特にスキーみたいなのは関西圏のほう、そういうこと

でやはり地域、地域で当市に来ていただくお客様に対して、どういう情報を与えて、広くはお客を集めていくかというのが、今後の課題となると思ってますけれども、関西圏は本当に新たなものということで捉えております。そういう中で状況を見る中で、関西圏での取り組みというのは進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから今議会、初日の市長の行政報告で、体験教育旅行誘致促進事業、これに関連して延べ5,000人を超える利用を見込んでいるというふうなことで、非常に期待をいたしておるわけですが、この体験教育というふうなことで言えば、国のほうの施策もあるんですね。

農林水産省、それから文部科学省、総務省、子ども農山村交流プロジェクトというふうなことで、全国で2万3,000校、1学年規模で120万人の宿泊体験活動を展開することを目指し、小学校における宿泊体験活動の取り組みの推進、農山漁村における宿泊体験の受け入れ体制の整備、目標は500地域、地方独自の取り組みへの積極的な支援を行うということで、国の予算もかなり大きいものがあるようなんですが、市として、この事業を検討されたというようなことがありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

体験交流に関する補助制度というのは、いろんなものがありますけれども、本市としては、1つは特別交付税の制度の中で、子ども農山漁村交流プロジェクトというのがあります。

平成25年度の例で言いますと、本市の交流の窓口というのはツーリズム推進協議会が担っておりますけれども、そこへの負担金400万円を、この特別交付税の費用ということで計上して、これはルール分として2分の1、200万円が特別交付税として交付されております。そのほかに受け入れ団体のツーリズム推進協議会のほうでは、主には県の補助金を中心になりますけれども、平成22年度から4年間の間に、約370万円ほどの補助金をいただいて活動しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

そうしますと、私が今お話申し上げたこの制度というのは、既に使って体験教育を実施していることなんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

議員が言われた補助金制度を使っているかどうかというのは、ちょっと不明でありますけれども、何らかのいい財源を見つけて実施しているということでもあります。特に、ツーリズム推進協議会では聖学院の体験交流を主体として、ツアーでもナスとかトマトのもぎ取り体験、そういったものに取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

この3省でやっておられる制度を見えますと小学生ということですから、中学校と比べて大変なことになるのかもしれませんが、この中身を見えますと、子供たちの直接効果はもとより、受け入れ側である市内の経済効果、地域コミュニティの活性化、効果はかなり大きいものがあると。それから将来効果として、これは何よりも成人後の農林業へのかかわり、担い手確保の観点からも、国の多くの機関が期待しておるといふようなことなんです、所管課ではどうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、3省の総務省、文部科学省、農林水産省の、今、議員が言われます子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業、これにつきましては、平成20年度より実施されているというふうにお聞きしております。

それで、やはり農山漁村におけます人手不足、それから1次産業の衰退等を考えますと、このような体験事業を当市で、子供たちがやはり1次産業に興味を持って、いずれは担い手になっていただけるというところも非常に期待できるわけありますので、一時的にはその体験でもって、一時滞在によって糸魚川のよさを見ていただき、また、その方々が成年になって、2つの居住地域を持って生活し、いずれは定住にというふうな都市と農山漁村の共生というものに、結びつけられるものだというふうに考えておりますので、糸魚川市といたしましても1次産業の担い手の確保というのは、非常に大切な部分でありますので、またこのような事業を活用する中で、担い手の確保というのも考えてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

特に文部科学省では、集団宿泊活動の取り組みのあり方について、教育委員会や学校に示していくとしてますね。それから農林水産省、受け入れ体制の整備を一層支援すると。それから総務省では、特別交付税措置などにより地方公共団体への支援を充実する。3省ともに、持ち分、持ち分に対応するというふうなことを言っておるわけですし、今ほど課長のお答えの中で、市の取り組みも

可能であるというようなことでありますので、市の体制を整えていただいて、早期に導入をお願いしたいというふうに思います。

それから2番目の糸魚川市のブランドアップ対策についてでございますが、この特産品に関してでありますけれども、市のホームページでは、主に素材として特産品が17点紹介をされております。

商品としては、なりわいネットワークや糸魚川百選、いろんな機関からかなりの数の特産品が紹介されておられるわけですが、この糸魚川市の経済と知名度アップに大きな貢献をしていただいておりますので、今後ですけれども、この特産品の認証制度などでブランドアップを図っていただきたいというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

市のほうでは昨年、東京で食談会を2回開催をさせていただきまして、さきの一般質問の答弁にも市長のほうからご報告がありましたように7月から1カ月間、アンテナショップを都内で、飲食店でありますけれども、開かせていただくことになっております。また、7月11日から3日間、日本橋で食談会を開催をさせていただくことになっております。これらを開催できることになりましたのも、東京糸魚川会のメンバーの方からのお口添えを利用させていただいて、何とかこぎつけたということでありまして、さきの質問の中にもありましたように、東京糸魚川会の皆さんのお力を借りているというところでございます。

それから新幹線の開業を迎えまして、糸魚川市内で食事をしたくても、どこへ行けばいいんだとか、あるいは行ったお店のところで、どれくらいの地産地消の材料が使われているのかというのが、なかなか今見えない状況であります。

その点につきましては、今年度、食の魅力発信事業の中で、地産地消で取り組んでいただけるお店を、どのように外にアピールし表現できるかということも、ことしの事業であります。それも含めて糸魚川ブランドを、どのように認証していくかということも今年度の事業でありますので、なるべく早く目に見えるように、皆さんに示していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

認証に関して考えているというふうなことでありますが、1つの方法として、総務省の新・地域再生マネージャー事業というのがあるわけですが、私はこれを導入したらどうかなというふうに考えるんですが。

というのは、この事業でいきますと、地域資源の再発掘から販売戦略までのトータルコーディネートを外材材である専門家チームの力を借りて、地域ブランドとなる認証制度をつかって、バイヤーなどとのマッチングを行うというものなんですね。これは全国をよく知り、その道に情報を流せる専門家の一貫したシステムになるというふうなことなんで、これに乗ってみるのも方法かなというふうな思いもするんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

商品の開発、それから販路の拡大というのは非常に大変であります。商工農林水産課長を務めまして、その部分を職員と一緒にやっておりますけども、私が職員に常々言っておるのは、ある程度、種まきを一生懸命しようと。芽が出てきたところを一生懸命つかんでいくんだよということで、なかなか今、議員が言われますように経済効果というところまでは、たどり着いてないというふうに思っておりますが、先ほども申し上げましたように、ようやく東京でアンテナショップを1軒開くことができるようになりました。

そういう苦労の中では、今、議員が言われます新・地域再生マネージャー事業というのは、財団法人の地域総合整備財団、ふるさと財団のメニューだと思っております。そこで新たなプロからいろんなご支援をいただいて、我々行政マンでは、やはり考えのつかないところをアドバイスいただいて商品開発、販路というのは、非常に有効な手だてだというふうに受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

今、課長のおっしゃる地道な戦略、これも本当に大切なことであると思うんですね。

地域でのノウハウは我々は持っていますが、なかなか全国へ打って出ることになりますと、やはりネットワークに乗せなければならないわけですし、トータル的にサポートを受けて、1つの軌道をつくるというようなことも大切だというふうに私は思うわけなので、その辺も考えていただければなと思うんですが、もう一度いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

先ほど答弁いたしましたように、ここ、なりわいネットワークを立ち上げまして、これで3年目になるわけですが、やはり販路を見つけるというのは非常に大変なことでありますし、また、逆に商工業者、あるいは1次産業者の皆さんも私たち以上に、そういう販路を見つけるのは、右往左往しながらやってきてるんだろうなと思っております。

そういう意味では、これが糸魚川食談会のチラシでありますけども、このように東京で活動してくるに当たりまして、私自身の名刺も単なるありふれた名刺ではつまらななと思ひまして、これが糸魚川駅にタペストリーとして掲げてあるわけですが、これをバックにして私も名刺をつくってみました。ただ、その名刺を配っても、糸魚川というのはこういうものがあるんだよというだけでは、なかなか糸魚川を売り込みすることができませんので、このような名刺を挟んでチラシを配るパンフレットをつくってみました。これを持って糸魚川市の職員、今月の部課長会議で報告をいたしまして、各課においても外へ出ることがあれば、このリーフレットに名刺を挟んで、糸魚川

市をみんなで売り込もうということを、各課をお願いしたところであります。

そのようなことで、非常にいろんな工夫はしておるわけですが、議員が言われますように、やはり専門家の皆さんのお知恵、ネットというものは必要だと思いますので、言われました財団のメニューにつきましては、検討させていただきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

一步踏み込んだ対応を具体的にもうやっておられるということで、非常に期待をいたします。

先ほどから申し上げておりますようにこの地域ブランド、やはり憧れのイメージと地域を結びつけるというふうなことで、非常にブランドというのは大切だというふうに思うわけなんです、1つご紹介をさせていただきたいと思うんですけども、ことしの4月から5月にかけて、能生出身で70代のカナダ在住の方が約1カ月帰ってきておりました。お話をお聞きする機会もありましたし、また、帰るときに糸魚川市のジオパークをはじめ、いろんなパンフレットをたくさん持っていただきました。また、帰ってからお礼のメールもいただいておりますが、その中で、このカナダでの経験を踏まえて、地域おこしのアイデアと提案というふうな内容でメールをよこされたので、少しご紹介をさせていただきます。

まず、1点目は50年ほど前にあった炭焼きの復活、数カ所復活させて働く人を地方特別公務員にし、観光化したらどうか。

2点目が、山菜収穫に鑑札制度と入山料を取り入れ、地域外の人にも開放する。栽培する人と地元の人は無料にしたらどうか。

3点目が、能生海岸の防波堤を釣り場にして、綱を結んだ浮輪を10カ所ほど設置して、死亡事故を防いだらどうか。

4点目が、スギの木の活用に関し研究し、資源大国にしたらどうか。

5点目が、諸外国のいろいろな文化、祭り、歌、ダンス等を糸魚川市に招き、恒例化させると。

それから日本には砂利道が少ないというふうなことも言われておりました、私は冬場の雪のことを申し上げとったんですが、砂利道のよさも説いておられました。今申し上げました何点かの提案についてですが、何かお感じの点がございましたら、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は住民の生活の利便性のために非常にいろんなことをやってきたことが、逆に地域の特色をなくしてる部分もあるのかなと感じる部分もございます。我々はいろんな肩に力を入れ過ぎると、どうもかたくなって、なかなか近づきがたいものになってくる部分もあるので、もっとやっぱりフランクに、いろんなものを捉えていかなくちゃいけないんだろうと思ってる次第であります。

そういう中で、地域ブランドというのは非常に大事であるわけでありまして、よそから見た人の

考え方というのも十分に捉えていきたいと思っております。その辺をどうすればいいのかというのは、やはり非常に難しい部分でございますが、しかし、我々の資源というのは、もうあり余る資源があるわけでありまして、よそにないものは当然なんです、よそにあってもすぐれているもの、また、すぐれた商品にもできるものがあるわけでありまして、今、地域の人たちが非常に食文化などにおいては、高齢者がちゃんとつなげてきとるわけですが、本当にもうしばらくすると、逆にそういった人たちが、いなくなるわけでありまして、そういったものをあわせながら、いろんなものの提供の仕方、やり方があるだろうと思っております。

先ほど課長のお答えにもあったように、非常に今やっと基地を見つけたな。そして、それをどのように広げていくかということも、今捉えてるわけでありまして、そういう中で、今言ったような事柄とか、また新たな取り組みについては、またどのように我々は工夫して、出していけばいいのかというのを捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。

市長がおっしゃるとおりだと思うんですね。市内と市外の方、とりわけ外国にお住まいの方とは感じる魅力というのは、かなり違いというか差があるわけですが、とにかくこの地域資源を生かすには、クリアしなければならない条件、課題はたくさんあるんですが、多くの人にやっぱり利活用していただくということを第一義に考えた場合、必然的にそういうものをクリアできるんじゃないかというふうに思いますので、1つの貴重な提言というふうに受けとめていただきたいというふうに思います。

それでは、3番目の情報発信とシティセールスについてお伺いをしたいと思います。

島根県の海士町では、全国から島の行商人を募集して、キッチンカーを走らせて首都圏で出前キッチンをしてるということ。それから佐渡市では職員に特産品を持たせて、首都圏で行商をさせているというようなケースがありまして、今や単にパンフレットやカタログの配布、それからアンテナショップでPRするというにとどまらず、一步踏み込んで実績を上げている制度というのがあるんですということで、糸魚川市としまして、こんな仕組みをこれから考えるということができませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

やはりチラシだけを配るというのは、もう今のセールスの中では、少し欠ける部分があるかなと思っております。あわせて、やはり動画も見せなきゃならんだろうなと思っております。ことしの3月の食談会的时候は、ちょうど糸魚川では自由通路の竣工式がありまして、その日に食談会が同時開催でありましたので、糸魚川のイベントを録画をいたしまして、即その日の東京での食談会の会場で、首都圏の皆さんにイベントの内容を流したということで、非常に興味を持っていただきま

した。

それから今ご提言のように、食べていただくという部分も非常に大切だと思っております。食談会の内容も、首都圏の一般の皆さんを対象にする日にちと、それから飲食店の専門の皆さんを対象にする日にちと分けて対応しております、これをごっちゃにしますと、やはり目的がぶれてしまいますので、そのような対応をして専門家の皆さんとの商談会、それから一般の皆さんに食べていただいて、糸魚川市を知っていただく部分のイベントと分けて開催をしております。

特に飲食店、専門の皆さんとは非常に突っ込んだ話もできますので、効果が出ておりますし、また、逆に一般の皆さんからも糸魚川のものを食べていただいて、買っていただいて、3月には持っていった商品が全部売り切れて、また糸魚川のほうから送り込むというほど人気があったということでございます。

ご提言のように、やはり持って出て、食べていただいて、糸魚川を知っていただくということを、これからますます取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから最近、我々の世代なんですが、首都圏等で活躍した方々が定年を迎えて、非常に最近、ふるさと糸魚川を思う気持ちが強くなっているんですね。びっくりしとるんですけども、老後は糸魚川ということでUターンを実践されている方もいますし、また、Uターンされないまでも首都圏でのんびりというふうなことであるわけですが、新しい仕掛けとしまして、この方たちから協力していただいて、この糸魚川市の売り込みをしていただいたらどうか。先ほど田原議員のほうからも話ございましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

そういった活動の1つということでもありますけれども、たまたま東京糸魚川会のメンバーの中で、まちむら三世代っていうNPO法人を立ち上げられました。これは東京を中心に関東在住の大学の先生の経験があられた方とか、ご商売をされておられる方、いろんな分野の方が構成メンバーとなっておりますけれども、こういった人たちは、ふるさとの思いが強い方ですので、ぜひ糸魚川へ体験旅行等を都会から送り込もうというような、田舎と都市の交流と言いましょか、そういったことを目的として立ち上げられた動きも最近の動きとしてあるわけであります。

東京糸魚川会のメンバー、先ほど来から話が出ておりますけれども、いろんな情報と人材をお持ちの方でありますので、またそういった意味では連携を密にして、そういう部分でぜひまたご協力を賜りたいなというふうにも思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

東京糸魚川会について話が出ておりますので、4番目の東京糸魚川会、糸魚川応援隊などの協力組織、こちらのほうへちょっと移りますが、この東京糸魚川会のホームページ、ブログを見ますと、非常に外から見た糸魚川がよく見えるんですね。したがって、認知度向上に大きく役立っているわけなんですけど、市とのつながりですね、とりわけシティセールス、こういった関係から見ますと、具体的な取り組み、先ほどのお話のような取り組みもあるわけですが。

そこで、ことしの2月に新年会が盛大に行われたというふうに書いてあるんですが、参加されました織田副市长さん、それから斉藤商工農林水産課長さん、お二方はご出席されているようなんですが、ご感想をお聞きしたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市长。〔副市长 織田義夫君登壇〕

○副市长（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

2月、ちょうど東京で雪が降った日に総会がありまして、出席をさせてもらいました。私も糸魚川会の会合は初めてでありまして、初対面の方が非常に多かったわけでございますけども、ざっくり申しまして、懇親を深めたということでもあります。

皆さんはやはり糸魚川を非常に大切に思っていて、そして何とか力になりたいということは、ひしひしと感じられるということでもあります。そういったことで、懇親を深めて帰ってまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

ちょうどその日に海洋高校の松本先生が、新幹線開業に向けて高校生がまちづくりというふうな講演を1時間ほどされました。非常に東京糸魚川会の皆さんも海洋高校の活動に興味深く、また、新潟県人会のほうから会長もおみえになって、じゃあ県のほうでもそんなようなお話を聞いて、ぜひ応援したいというふうな話もお聞きしてまいりました。

今、副市长が言いますように非常に東京糸魚川会の皆さん、ふるさとの思いが非常に熱くて、もう身震いするぐらいの熱を感じて帰ってまいりました。非常に雪が多くて、帰るのに列車がおくれるので大変だったということをお印象にしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

大変突然で申しわけございませんでした。

東京糸魚川会に関して、今、お話をさせてもらっているんですが、今回、糸魚川応援隊の募集、これが始まりましたし、ぜひとも協力をしていただきたい団体になるわけですけども、募集が始ま

って喜んでおるんですが、ことしの目標の人数は5,000人ということで募集が始まっておりますが、ことし特に力を入れたいところがございましたら、お伺いをしたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、100人を超えての登録をいただいております。目標は5,000人ということですので、少しハードルは高いわけなんですけれども、幹事会等を通じながら、1人でも多くの市民の皆さんからお口添えいただいて、市外の皆さんから登録いただけるように目標数値に近づけていきたいという努力を、ことしの活動のメインとして位置づけているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

まだスタートしたばかりなんですけど、私は登録者の拡大には広報紙、チラシ、もちろんこれは大事なんですけど、まず、職員が市民に趣旨をよく説明して動き回る体制、これが必要だと思うんですね。熱く糸魚川市を語っていただければ、市民も乗ってくるんじゃないかというふうに思うんですが、その辺の職員の体制はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

今ほどの件は幹事会の中でも、幹事の皆さんからも意見として出されているところであります。やはり職員から市民の皆さんに、いかに協力を呼びかけていくか。いろんな呼びかけるタイミングは、あるというふうにも思っております。各課それぞれのいろんな会合等もあるわけなんですけども、いろんな場面で熱く語ることが、1人でも多くの応援隊の登録につながっていくんだろうというふうに思っています。

例えば地区訪問懇談会等、年間の人数でいいますと四、五百人の方がおいでになれば、市民1人が1人という感覚でありますと、当然、それだけの人数がもう集まるということになりますので、いろんな場面を通じて、地道ではありますけれども、会員の獲得に努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それからこの件で、ちょっと具体的なお願いなんですけど、まず、市民の方から市外の方に電話で入隊を呼びかけていたという場合があるわけですね。内諾していただいた方に、市役所から応援隊の募集内容と申込書の書類を送ってもらって、折り返し申込書とアンケートを送っていただく方法

があれば、非常に紹介しやすいという声が結構多いんですけども、そういう方法って、ちょっとわかりますかね、回りくどい言い方ですが。そういう方法があれば、非常に紹介しやすいと言うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

確かにご指摘の部分ですね、そういうケースも多々あるのではないかなと思っています。

といいますのは、これまで100人から登録いただいた中身を見ましても、その糸魚川応援隊を知った手段を見ても、個人のお口添えという部分が、これまでの中では一番多いんです。一方、また年代を見ますと、一番多いのがやっぱり50代、それから60代、40代、30代、20代と、こんな形で動いてきておりますので、今、確かにインターネットを通じた申し込みを第一に考えてきたわけでありまして、やはり口頭で申し込みいただいた方に、議員の言われるような申込書を送付して手続をとってもらおうという、アナログ的な方法かもしれませんが、年代等も含めまして、そういったこともまた1つの会員獲得の有効な手段になると思っておりますので、それについては、今、会員獲得の1つのまた方法として、前向きに捉えていきたいというふうに思っています。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

少し事務経費はかさむかもしれませんが、お願いをしたいと思います。

とにかく市民が一丸となってアクションを起こさなければ、この5,000人も厳しいというふうに思うんですね。いろんなところで話題になってくれば、どんどん伸びてくるというふうに私は思うわけで、これが逆に2、3年停滞するようだと、なかなか成果が出てこないというふうに思いますので、今年度、5,000人と言わず1万人を目指して、やっぱりスタートダッシュをかけなきゃいけないんじゃないかなというふうに思うんですが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

チーム糸魚川の今年度の大きな取り組みの1つとして、糸魚川応援隊の獲得の取り組みをいたしております。

今、斉藤課長のほうからお答えいたしておりますように、今年度、職員、市民が一丸となって、目標5,000人でございますけれども、少しでもそれを上回るような形での取り組みを、精力的に実施をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ぜひお願いをしたいと思います。

5点目の東京事務所の役割について、お伺いしたいと思います。

東京事務所に関しましては、田原議員からも幾つかご質問がありましたけども、私は事務所の役割はプロモーション機能、それから市の戦略基地としてのベースキャンプ機能、そしてやわらかい感じではサロン機能もあるというふうに思うんですが、この3点の機能に関して、具体的にこんなふうにやっていますよという事例がありましたら、ご紹介をいただきたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

糸魚川の東京事務所ということで、1つのポジションという立場の中からはあるわけではありますが、しかし職員は1人でございまして、全ての機能を受け持っておるわけであります。

そういう中で、やはり一番私が情報発信の機能があるんじゃないかなと思うのでは、今、全国で33の地域がジオパークを取り組んで、または取り組もうとして努力してるわけでございますし、また、その中で、さらに17の地域がジオパークに取り組みたいというような今考えで、東京事務所へ連絡とっております。各自治体の数でいきますと、200をもう超しております。そういったところが、今、東京事務所へ連絡とってくる。そして東京糸魚川事務所が、その中心になって動いとるわけでございますので、いやが応でもやっぱり糸魚川が情報の発信になっていっておるわけであります。事務所のジオパークの職員が東京で雇用したのが、お二人でございます。女性二人なんですけど、それも糸魚川の仕事を時々手伝ってくれたりしておりますし、東京糸魚川会の皆様方が、そこをベースにしながら会議をとっていただいております。今60周年の、来年3月7日のその大会に向けて集まるのも東京事務所を使っていただいておりますのでございまして、そこへ集まっては情報交換をし、そして会議をしていただいているというところで、非常に今、そのジオパークだけではなくて、そういうまたご活躍もいただいております。

そして、そこは大手町にあるわけございまして、各省庁の皆様方も直接おいでいただいたり、また、そこから直接出ていくわけございまして、非常に短期間に対応できるということで喜ばれております。

そのように事務所の位置づけ、また、事務所の内容にとってもそのようなことで、非常に有利に展開をさせていただいておりますのが実情でございます。そして地元の神田の飲食店組合の皆様方とも、おつき合いをさせていただいております。そのようなことから、今、食談会にもいろいろと影響が出ておるわけでございますし、今、波及しておるのが麴町飲食店組合、さらにまた違う飲食店組合にも、声をかけていただくところにも参っておるわけであります。ですから、そこに地を張らなければわからなかったことを、今、感じておるわけでありまして、非常に効果的に活動させていただいております。

また、費用もかかることは、当然、かかっておるわけございまして、費用対効果の中で、なか

なかそれとマッチするののかというのは、ちょっとわかりませんが、私どもといたしましては、今までにない具体的な実績が上がっていると捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

場所が移って、非常に場所的にも好位置にあるというふうなことでありますので、ぜひ活用をしていただきたいというふうに思うわけであります。

2番目の1点目の競技力向上への取り組みと課題についてへ移りたいと思うんですが、まず、相撲のまちの取り組みに関してですけれども、マイタウンスポーツ推進事業ですね、この進め方について、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

相撲のまち糸魚川の取り組みは、新潟県の補助を受けまして海洋高校、並びに能生中学校の相撲の指導者、選手の皆さんの取り組みが県のほうに評価されまして、県としても平成25年度から3カ年間、市民にそれらが周知される取り組みに補助しますということでございます。

初年度につきましては、ポスター、のぼり旗等の作成にその経費が充てられ、ことしの4月にお披露目できたということで、マスコミ等にも報道されております。市のほうの協力の体制としましては、それらのポスター等を活用して、市内各所で市民の目に触れるようなことについて、支援をしてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

特に、この海洋高校と能生中学校の田海総監督のコメントですね。相撲のまちは、全国にもないのではないかと。これまでは競技の強化のみに力を入れてきたが、今後は積極的に発信にも取り組みたいということなんですが、この市民と一体になった動き、大いに期待をするわけですが、この件に関して、いわゆる市民とのかかわりという点についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

指導者の皆さんが考えておられますことの中にはジュニアの育成ということで、保育園児から小学生等を中心に、中学生や高校生が子供たちの指導に当たっていただけると。そういうことを学校で実施したいということでございますので、各学校、保育園等にそういった加入の申込書や、PR用のチラシ等を配布をさせていただいたところでございます。それから、あとはマスコミ等へち

らのほうから、随時、情報提供して、マスコミ等を使ったPR等に協力をしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ことは当市で中学校の北信越相撲大会もあるようでございますので、この相撲のまちをアピールする絶好の機会でもあろうかと思うんで、期待をいたしております。

2番目の国、県大会への遠征試合等への参加に対する支援でございますが、まず、お伺いしたいんですけども、市の平成25年度のスポーツ大会出場奨励金、これ対象者は何人で総額、それから平成25年度の体育協会奨励金ですね、これの対象は何人で、総額どれぐらいか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

まず、市の報奨金であります。市の場合には全国大会出場ということが要件となっておりまして、25年度は団体出場9団体、それから個人出場17人に対しまして、総額29万2,000円をお渡しをさせていただいております。

それから体育協会につきましては、この全国大会に加えまして北信越大会の出場者も対象としております。総数では団体出場が22団体、個人出場39人に対しまして総額117万5,000円の奨励金、さらには体育協会では北信越大会より下のジュニアの場合に、県大会に出場する際の交通費助成も行っておりまして、こちらのほうは16団体、44万9,000円の交通費の助成をさせていただいたというのが、25年度の実績でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

本来、選手にとりましては、市から強制されてスポーツをしているわけではございませんので、奨励金、奨励金を頂戴するだけでもありがたいというふうなわけですが、北信越大会とか全国大会出場レベルの選手というのは、日常の生活を半ば犠牲にして日ごろの練習、遠征を行っておりまして、もう少しみんなで支えてあげたいなというふうな状況を見たり聞いたりしておるわけで、市としても日本一の子どもづくりや人口減少問題なんかを抱えてる状況でもありますので、この若者への投資、これを非常に大事なことだというふうに思うんで、もう少し増額、充実させるというふうなお考えはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

議員のほうから温かいお言葉をいただきまして、私どもも同感に思っておるわけですが、市の報奨金、あるいは体育協会の激励金とも、ある程度、公平に支出をしなきゃいけないということで、ケース・バイ・ケースという考え方は今のところはとっておりませんので、例えば同じ全国大会でありまして北海道で開催されるとか、九州で開催されるという場合には、非常に負担が大きいというご苦労は私どももお聞きしております。そういったものに対して、多少なりとも差をつけられるかどうか、また、対象の範囲が適当かどうか、そういったことにつきまして、今後、また体育協会等の関係する皆さんのご意見を賜りたいと、そして研究してみたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それぞれの団体では大変厳しい環境の中で、資金集めを工夫しながら活動してるというようなことでありますが、今回、1例を挙げてお伺いしたいと思うんですが、毎年、秋に行われております県縦断駅伝競走大会がありますよね。これに糸魚川チーム、去年は4位に入賞、一昨年は5位、その前は7位ということで、この糸魚川の名を県内にとどろかせているわけですね。

特に、糸魚川チームは市民ランナーで構成されている。大都市とか実業団を擁するチームに負けない力を持っているということで、注目されているということですが、このチームは糸魚川代表チームという位置づけなのか、この市とのかかわりについて、お伺いしたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

市で直接、選手指名とか、選考とかいうふうなかわりは持っておりませんが、体育協会のほうの中の陸上の連盟さんのほうでチーム編成にはかかわって、糸魚川市の代表として出ていただいているものというふうに理解しておりますが。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ちなみに昨年の場合、1位の新潟西蒲、2位の見附、3位の上越、これは自衛隊とか実業団のチームで構成されとるわけですね。全てにおいて環境、体制が抜群だというふうなことなんですが、この糸魚川チームなんですけど、毎年、資金難で、監督、コーチをはじめとする関係者の使命感に頼っているというふうなのが現実で、この競技のチーム編成というのは、ほかの競技とちょっと違って、中学生、高校生、さらに大学生と、学生の力も必要なんです。特に大学生の帰省の旅

費などを捻出するために、必死になって取り組んでいるというふうなことなんですが、毎年、ぎりぎりのところで出場してるとというのが現状なんだそうですが、この現状というのはおわかりですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

そのチームの現状につきましては、議員さん等のほうから逆に教えていただいておりますような状況でありまして、詳しくは承知しておりませんでした。

先ほど申し上げましたように、市のほうからの奨励金につきましては、全国大会出場以上という、これは体育ばかりではなくて文化も含めた形の中で、全国レベルの大会以上の場合に、市から奨励金というふうな形をとっておりますので、今、ご指摘のありました県縦断駅伝競走大会につきましては、ちょっとそちらのほうの対象にできないというところがございます。

あとは体育協会の活動助成、活動補助金のほうで、多少なりともそういったものに対してご要望に添えるかどうか、また体育協会の皆さんと、ご相談をさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

課長のおっしゃるのもわかるんですね。北信越大会、全国大会、1つの基準を設けてあるんですが、県大会とはいえ特殊なやっぱりレースなり競技ということになると、少しまた目を開けていただきたいというふうなことも感じるわけです。

それから、先ほど奨励金、激励金の話がありましたが、一部で交通費等の助成もあるということなんですが、これはやはり交通費、宿泊費、参加料、これ相当な額になるわけですので、かかった経費の何%か補助するというような方法、見直しなんかも行っていただければ、ありがたいんじゃないかと思うんですが、その辺、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

激励金という形の中で、そういった経費の何%という差をつけるのがいいのか、あるいは激励金は激励金として頑張ってくださいという気持ちですので、それは一律にしておいて、また別途、そういった補助を設ければいいのか。そこら辺は、少し研究する余地があるかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

県縦断駅伝競走大会の場合、今、その組織が困っているのは、学生用の糸魚川のネーム入りのユニフォームなんですね。合併後に新調して9年目ということで傷みが激しくて、糸魚川のロゴがすり切れて見えづらいと。ところが学生ものは成長盛りで、各種サイズを取りそろえなきゃならんというふうなことで、非常に困っておられるわけで、この団体から継続して好成績を維持してもらおうというためにも、市当局も一緒になってこの状況を打開することを考えていただきたいと思いますが、いかがですか、市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

聞けば聞くほど、何とか支援してやりたいなという気持ちになってまいります。しかし、やはりいろんな話 comes。例えばあんまり有名ではないんだけど、全国大会に出るんだと。それもどっちかという私的な組織であったりもしたり、また、文化のそういった活動等もあって、全国大会という名前があるんですが、なかなか我々のイメージする全国大会でなかったものもあったりもすると、果たして、なかなかこの基準というのは難しい部分があります。

そういったのを協会の皆様方と、もう一度話をさせていただいて、その辺の基準の見方、いろんな考え方があろうかと思うわけでありまして。しかしながら、どうあれ糸魚川というものを全国にPRする、大きいご貢献をいただいているわけでございますので、そういったことを考えながら、文化協会や体育協会の皆様方と少しその辺を検討していきたい。また、できればなるべく早く、ご支援できるような形にもっていければと思つとる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

非常に市長から心強いお言葉をいただきまして、ありがとうございます。

この県縦断駅伝、監督の話では県縦断駅伝を通じて学生たちが地元に戻り、糸魚川市のために走りたいという強い志を持って頑張っており、このような好成績を持続することができておるといふふうに語っておりまして、監督、コーチのこの熱意と使命感、これを支えているのは若者なんだそうです。近いうちに箱根を走れる選手も出てきそうだという声も聞こえておりまして、この選手層から見て、この県縦断駅伝、この期待度というのは所管課ではどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

もう期待度は高いものがございます。特にスポーツは競技スポーツ、当然、プレーヤーの皆さん

は一生懸命やられるわけでございますが、やはり見るほうもしっかりと応援するし、また、逆に糸魚川をふるさととする人たちも非常に感激をしながら、ふるさとを思いながら応援していただける大きな事柄だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

今回、1例として県縦断駅伝の実情を取り上げさせていただきましたが、先ほど市長もお話のように、ほかの団体も同じような状況の中で活動されているということも、本当に思っておるわけです。今回の行政へのお願いとあわせて、我々市民の応援も本当に大切だというふうに感じております。市民の皆さんの応援もよろしくをお願いをしたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わりにします。ありがとうございます。

○議長（樋口英一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

ここで2時40分まで暫時休憩します。

〈午後2時28分 休憩〉

+

〈午後2時40分 開議〉

+

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

○16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は介護施策の充実について、株式会社クリエイトワンプーズの問題、シルバーパス制度について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、介護施策の充実について。

(1) 第6期介護保険計画策定の取組状況はどうか。

(2) 第5期介護保険計画の実施状況はどうか。

(3) 市の総人口が減り続けていますが、高齢者数が増加から減少に変わるのは何年後と推測しているか。

(4) 地域での24時間在宅介護体制づくりを強化する必要があると思いますが、どのように考えているか。

(5) 医療と介護の連携について、どのように考えているか。

(6) 介護予防の基本である病気の早期発見・早期治療、健康づくりの取り組みをどのように強めているか。

2、株式会社クリエイトワンフーズの問題について。

(1) 株式会社クリエイトワンフーズの新工場建設計画についての協力要請から建設中止にいたるまでの経過と市の対応について、どのように総括されたか。

(2) 計画に対応して行った事業や市が取得した用地等どのように考えているか。

(3) 株式会社クリエイトワンフーズの親会社である株式会社東食品で従業員全員解雇とのことでありますが、市としてどのように把握し、対応しているか。

(4) 地域産業振興や企業誘致についての今後の考え方をお聞きしたい。

3、シルバーパス制度について。

(1) 自動車免許証返上後の高齢者の交通手段について、どのように考えているか。

健康づくりを考えシルバーパス制度を導入し、75才以上の市民のバス代を無料にしたかどうか。どれくらいの予算が必要と考えているか。

(2) 認知症で行方不明になる方も少なくないと言われております。市で写真入りのシルバーパスを発行し、身分証明書にもなるようにしたらどうか。

(3) シルバーパスで温泉を無料にし、高齢者の健康づくりを応援したらどうか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、本年2月から3月にかけて実施したアンケート調査の結果をもとに、第6期計画の策定作業を進めております。

2点目につきましては、第5期計画の認定者数は、25年度計画値が3,142人に対して3,150人、保険給付費は計画値が57億9,000万円に対し実績は51億6,000万円であります。また、施設整備については、特別養護老人ホームは計画値90床に対し56床を整備する予定となっております。

3点目につきましては、国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口は、65歳以上は平成32年の1万6,322人がピークで、その後、減少する推計になっております。なお、75歳以上は、平成37年の9,647人をピークに減少すると推定されております。

4点目につきましては、さきのアンケート調査の結果を分析した上で、検討してまいります。

5点目につきましては、保坂議員にもお答えしたとおり、昨年度、発足しました在宅医療連携協議会の中で連携を深めてまいります。

6点目につきましては、未受診者への受診勧奨などによりまして、特定健診や各種がん検診の受診率向上を図るとともに、身近な地区での運動教室の新規開設を図っております。

2番目の1点目と2点目につきましては、企業誘致、雇用の増大に期待し、支援したところであ

りますが、原材料の高騰や為替レートの激変という状況の中で、建設中止となりました。

既に取得した土地は、大切な市の財産であると考えており、市有地の中の民地につきましても市が取得して、一団の土地といたしまして、引き続き、企業誘致に努めてまいります。

3点目につきましては、関係機関と連絡を密にする中で、状況の把握に努めてまいりました。今後は、ハローワークとの連携を強くいたしまして、離職者に対応してまいりたいと考えております。

4点目につきましては、本件を大きな教訓といたしまして、企業誘致における奨励措置の見直し作業を進めております。

3番目の1点目につきましては、路線バスを利用できる高齢者には高齢者おでかけパス事業を、路線バスを利用できない方には、高齢者おでかけ支援タクシー券交付事業などを行っております。

75歳以上の市民のバス代を無料にした場合、約1億2,000万円の予算が必要になります。

2点目につきましては、認知症の方が身分のわかるパスを常時携帯することは、紛失の危険性もあり、厳しいと考えております。

3点目につきましては、老人いこいの家を利用した、らくらく体操の普及啓発に努めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

高齢者数、認定者数の推移、先ほど市長からお答えありましたけども、この第5期の計画を立てるときの推定数と、ほぼ一致してるということによろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

介護の認定を受けている方の推計でございますが、総数につきましては、大体計画どおりでございますが、要介護度4、要介護度5の推計につきましては、計画値よりも少ない状況でございます。要介護度1・2・3が、少し計画値よりもふえている状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

第5期で計画されたサービス計画と、その利用状況、主な点で結構ですが、聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

計画されております部分で、施設サービスにつきましては、大体計画値どおりでございます。地域密着型のサービスにつきましては、計画に比べて若干、90%ぐらいの実施率になっております。

先ほど答弁にもありましたように、給付費につきましても計画値よりも若干少ない状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

特別養護老人ホームの増設についても、第5期の計画の際に論議となったわけではありますが、増設は先ほど市長が答弁されたとおりですが、計画に対して少なくなったわけではありますが、この増設と入所希望者の関係はどういうふうになっているか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

待機されている方につきましては、昨年10月が一番直近の調査でございますが、在宅で要介護度4・5の方につきましては、90人前後となっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

そうするとクレイドルやけやまの16床が5月1日から、これが入所できるようになって、その分が減ったというふうに考えてよろしいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

待機者数につきましては、昨年10月の調査でございますので、クレイドルやけやまの増床分につきましては、そのあたりでは計算はされておられません。その以前の数字でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（樋口英一君）
新保議員。

○16番（新保峰孝君）

そうすると、おおさわの里の40床、実質的に32床ということですが、それを含めて第5期の計画期間中に、在宅の要介護度4・5の方ですね、90人からどれだけ減るといふふうにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

40人ほど減るといふふうに考えております。

申しわけございません。待機者数その段階であれば、40人ぐらいになるであろうといふふうにご予想されます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

先ほど、この第5期の介護保険計画の中の保険料の関係ですが、57億9,000万円を計画していたけども、実際は51億6,000万円ぐらいだということではありますが、この第5期の3年間で、どのぐらい残ることになるのか、聞かせてもらえますか。

○議長（樋口英一君）

暫時休憩します。

〈午後2時53分 休憩〉

〈午後2時53分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

すみません。正しい数字ではございませんが、計画値から比べまして26年度の予測をいたしますと、計画に対して91%前後に給付費が推移するのではないかと見込んでおります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

具体的な数字のほうはまた後で、じゃあ委員会のほうでも聞かせてもらいますが、特別養護老人ホームの分が一番大きいんじゃないかと思いますが、これらも含めて第6期の介護保険計画について、若干伺います。第6期では、何が重点的取り組みになると考えていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

第6期、今までもそうでございますが、地域包括ケアシステムの構築が大きな課題になると考えております。団塊の世代が75歳以上になります2025年をめどに、重度な要介護度状態になっても、住みなれた地域で自分らしい暮らしを、人生の最後まで続けることができるような包括的なシステムを構築していく必要があると思っております。入所が必要な方に対しては、入所サービスが必要でございますが、できるだけ在宅で住まわれるような、そんな体制づくりを努めていきたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

介護保険料については、どういうふうにお考えでしょうか。

施設介護と在宅介護を考えた場合、施設介護のほうが介護の費用がかかるというふうに言われているわけですが、長い目で見た場合、費用負担も大変になってきておりますから、当然、今言われたようなことでやっていかなきゃならんと思うんですが、それらを踏まえて第6期の介護保険計画の介護保険料はどのように、まだ決まったわけではありませぬので、その基本的な考え方、どんなふうと考えていきたいと思われているか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

今ほど福祉事務所長も答えましたように、施設のほうが非常に在宅に比べて費用がかかるわけです。今現在の第5期の平均の市民の皆さんから負担していただいている、いわゆる介護保険料という金額が平均で5,860円ということで、介護保険が始まってから2倍ぐらいに上がっているわけです。したがって、第6期につきましても今のサービスをそのまま、今のような利用状況でございますと、第6期については、今の第5期に比べて、やはり上昇するというふうに私は今思っ

ております。

したがいまして、第6期につきましては、先ほど福祉事務所長が申しあげましたように、施設をさらに増設するというよりは、どちらかという在宅でできる人については、できるだけ在宅で介護をできるようなサービス体制の構築が必要だという形になります。ただ、今、糸魚川市の場合ですと山間地が多い、あるいはお年寄りだけがいる、あるいはひとり暮らしがあるということで、そういうものも踏まえて、また、先日行いましたアンケート調査も踏まえまして、第6期の計画について、これからしっかりと作成をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

先ほどの答弁にありましたように高齢者数、65歳以上の方が一番多くなるのが、平成32年ということでもありますから、あと6年後、さらに75歳以上が、それからさらに5年後と、11年後には75歳以上の方が一番多くなる。とにかく高齢者全体では、6年後がピークになるということでもあります。

当然その中で、このままいけば介護認定者数がふえることも予想されるわけでもあります。現状のままでは、特に介護度の重い方たちに対する対応ということであると、施設あるいは在宅ということでも対応できないことにもなりかねないというふうに思いますけれども、どういうふうにやっていくかということですよ。その辺の認識を伺いたいと思います。

同時にもう1つは、このピークを過ぎると、利用者が減っていくことになると思いますよね。この点については、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

今、議員さんがご指摘のとおり、今後10年間ぐらいは、この福祉を利用される方がふえていくと。その後、今度減っていくということになりますので、例えば施設サービスをとということになりますと、10年先を見据えて今整備していくと、その後が今度は逆に余ることになります。

ただ、今のピークをどう乗り切るかというのは、なかなか難しいんですが、先ほどからもお話ししていますように、在宅で介護をできる人は、できるだけ在宅という形にして、施設サービスをそんなに伸ばしていかないような方向にしないと、その後の負担が、大変になってくるということになります。

ただ、先ほどから申しあげましたように、それが全て理想どおりうまい姿でできるかどうかというのは、なかなか難しいところではありますが、そのためにも例えば在宅でリフォーム事業を使いながら、できる限り訪問介護、訪問看護、そういうものを受けやすい体制整備を、今から進めていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

特別養護老人ホームの施設の更新は、どういうふうにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

特別養護老人ホームにつきましては、各法人のほうで運営をいたしておりますので、こちらのほうから、こういうふうにしましょうというわけにはいきません。また、法人の方とも意見交換をする中で、どういうふうにして運営をしていけばいいのか、どういう施設がいいのかというところは、意見交換をさせていただきたいというふうを考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

みやまの里の90床の部分は、昭和57年ですから1982年につくられて、32年が経過しております。そのほかのおおさわの里、ふくがくちの里、クレイドルやけやまは、それ以降、それぞれ10年後とか、それよりまだ新しいわけでありますから、当分はこの鉄筋コンクリート造の、住宅用で47年もつということであれば、これを改修しなきゃならん、建てかえなきゃならないということにはならないというふうに思います。もし、これをその前にやろうとすると、今度はその費用というものがまた大変になってくる、特別に大変になってくるというふうに思います。

そういうことから考えると、在宅介護を広めていくということになると24時間在宅介護、これを広げていかなければいけない。そうなりますと、その課題というものがあると思うんですが、これはどこにあると考えていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

まず、在宅介護で今一番、特に夜間の体制は、それを行う人、介護サービスをする人たちの確保だというふうに思っております。特に、私ども糸魚川市のように山間地が、いわゆる川沿いに広がっているという地域では、非常に移動に時間がかかります。また、言い方がいいのかわかりませんが、住宅密集地でないところを通らなければなりません。そういったことで、まず、人の確保というものが一番問題になるかと思っております。

それから今後、いわゆる24時間サービスが、どれくらいふえるのかどうかというのが、まだ今のところそういうサービスが開始されてませんもんですから、なかなか推計ができておりません。そういう中で、今後24時間サービスがどれくらいになるのか、いわゆる需要者がどれくらいにな

るのか、そういったものを今後しっかりと予測を立てて、それに対応する先ほどのサービスの方々をどれだけ確保しなきゃならないのか。そういったものが、今、一番重要な課題であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

今の糸魚川市の施設は100人とか120人とかですね、施設の中で介護を考えている。また、別に在宅のほうは在宅のほうで、社会福祉協議会なりで考えているというのが多いんじゃないかと思うんですよね。今、施設そのものが、まだもつ状態でありますから、これをどうこうというわけには、そう簡単にはいかないと思うんですが、ただ、考え方として施設の中だけで考えている、あるいは地域だけで考えているということでは、もう対応できんくなってきてるんでないかなというふうに思うんですよね。

そういう点で、やっぱり事業をやられている事業者の皆さんと市のほうとの意見交換なり話し合いというものは、非常に大事だと思うんですが、その辺は話し合いをされてますか。事業者の皆さんは、どういうふうな考え方なのか聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

施設の耐用年数もありますことから、今現在は法人のほうとお話し合いをしておりますが、今後、どんなふうな運営の方法がいいのかということは、意見交換していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

在宅介護を考える場合に、住宅は介護されることを考えた住宅にしていく必要があると思います。夜中に介護者が入ってきてもいいというふうにするためには、まず1つは、家を新築する際のモデル住宅を市のほうで幾つかのタイプをつくって普及させていくと。いま1つは、介護が必要になったときに住宅の改造や、そのための居室をつくと、今も制度がありますけど、もう1つは、レンタル式の部屋を増設する。こういうふうなことが考えられると思うんですが、この点については今まで、例えば最初からモデル住宅をつくって、それを推進しましょうというふうなことは、あまり考えてこられなかったんでないかと思うんですけども、ずっと長い目でやはり見ながら、対応していく必要があるんでないかと思うんですが、この辺については、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

今ほど議員さんがおっしゃるとおりだと思っております。

特に今、核家族化して、若い人だけでお住まいになってる方は、そういうふうに加だだ先のことだというふうに加思っております。したがって、家を新築する場合におきましても、そういう介護を念頭に、なかなか住宅を新築するということは、少ないというふうに加私ども思っております。

どんなモデル住宅が適切なのかどうか、まだ私どももそういうお示しできませんけれども、そういう考え方は必要だというふうに加思っておりますので、ちょっと研究をしていきたいというふうに加思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

医療と介護の違いというのは皆さんご承知のように、簡単に言うと医療は一時的に入院するという加ことで、介護の場合は、ずっと生活していくということの違いではないか加思うんです。今後の介護というのを考えた場合は、やはり地域とつながる仕組みが必要ではないか加思うふうに加思います。

そういう加で、先ほど行政と事業者の皆さんと、あまりこういう加で話をしたことがないと言われましたけれども、事業者の皆さんは今の考え加だと施設であれば、どうしても施設を中心に考える。地域は地域で考えてしまう。そうではなくて施設と一定の地域をカバーするという加考え加で、その生まれ育った地域とのつながりを持った介護、そういう加観点が出てくるんでないか加思うんですよね。そういう加ことが、今後、必要になってくるんでないか加思うふうに加思うんですが、先ほど所長が答弁されましたけれども、そういう加で、事業者の皆さんと話を加して、そういうところまでは、まだ事業者の皆さんが考えているような状態じゃないということなんですか。その加辺のところは、どんな加ぐあいなん加でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

昨年度、発足いたしました糸魚川地域在宅医療連携協議会というものがございまして、平成26年度の活動の方向性が出ております。その加で、まず、病院、看護師等を対象にした在宅医療の研修会、あと、また主治医、副主治医制についての検討、また多職種連携の推進、住民への啓発というところ加で、今、取り組んでいるところ加でございまして。今後、施設に入りたくても、なかなか入れない状況というのは少しの間ありますので、その部分、在宅でどのように医療と介護を連携していくか加思うところの市民への周知も盛り込んでおりますので、そのあたりも啓発していきたいというふうに加思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保護員。

○16番（新保峰孝君）

在宅介護が広がるような状態にならないと、どうしても施設に頼るといふふうにならざるを得ないと思うんですね、ですから、これはどうしても在宅のほうが在宅介護できるような、そういう取り組みを強化していくというのは、どうしてもこの数年の間でやっていかなければいけないと思いますので、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

ショートステイに行くと、認知症が進むという話を聞きます。なぜ認知症が進むかと言うと、結局、家にいる間は家族なりいろんな接触があって、話したり刺激があるわけですね。ところが施設に入ってショートステイに行くと、そういう刺激がない、しゃべる機会が少なくなる。結局、そういうことが原因なんでないかなというふうに思います。

そういう点から考えると、先ほど言いましたように生まれ育った地域に近いところで、さまざまなつながりを持った介護ということが必要になってくると思います。ぜひそういう点で、取り組みを強めていただきたいと思います。

医療と介護の連携という点で、第5期に向けての要介護、要支援認定者1,500人を抽出して、回答が70%ありましたが、この中で介護が必要になった主な原因を聞いております。

主な原因は最も多かったのが、高齢による衰弱が292人、2番目が脳卒中で196人、3番目、認知症で180人、4番目、骨折、転倒146人というふうになっております。あとは少し少ない状況です。骨折、転倒や高齢による衰弱では、住宅の改修や筋力の維持。認知症では、早期発見や、ならないようにする取り組み。脳卒中では、早期発見、血管の正常化、食事改善等が頭に浮かんでくるんですが、こういう点が考えられるんですが、医療と介護をどのように連携して取り組んでいるのか、どういう連携の仕方を実際にしてるのか、聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今年度につきまして、運動を取り入れた健康づくりというところで、健康増進課と福祉事務所のほうで連携をとらせていただいております。まず健康体、運動教室の中で体を使った運動のほかに認知症予防ということで、脳トレを取り入れた、そういう運動も取り入れております。また、らくらく体操を2つの課で連携をしておこなっていただきましたが、いこいの家にそのDVDを置きまして、毎日の中で時間を設定しまして、それを流すような取り組み。また、そちらのほうに健康推進員の方に行ってくださいまして体操の指導をしていただくとか、そういうところで連携をとらせていただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

ぜひいろんなことを強めていただきたいと思います。医療と介護の連携のポイントは、私は基本的なことなんですけども、医療段階で治療できれば1億円で済むものが介護では3億円かかると、こういうふうなことを認識しているかどうか、基本的に、それが大事なんではないかと思うんですよ。この点、いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、介護の状態になる前の段階で早期発見、また、骨折等にならないように体の機能を衰えさせない、こういった事前の取り組みが大切だというふうに考えておりますし、先ほど福祉事務所長も申しあげましたように、福祉側でのそういった体操、また、私どもにおきましては、より身近なところで行えるような形で、おおむね地区公民館単位を中心とする中で、地区運動教室等をやらせていただいております。それらにつきまして、年々会場箇所をふやす中で、対応させていただいております。

また、早期発見につきましては、特定健診の受診率向上という意味合いから、土曜、日曜日等の健診を行うことによって、より受けやすい体制の整備、また、日曜でのがん検診等の実施、また、平成25年度からにおきましては3年、特定健診の未受診者に対しまして、お手紙を発送させていただきまして、どういった状況なのか聞き取り等をさせて、受診率の向上につなげるように努力をさせていただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

今、話をしました1億円、3億円というのは、私が考えたことじゃなくて、介護で名前の知られている方がおっしゃられたことを、医療の3倍かかるんだよと、介護になっちゃうと、というのをわかりやすいように、ちょっと1億円と3億円というふうに話させてもらいました。

今、課長のほうから答弁ありましたように、やはり病気の早期発見・早期治療というのが非常に大事ですよ。この前の一般質問でも言わせてもらいましたが、健康診査の受診率を引き上げると。多くの市民の皆さんに受診してもらおうと。そして、この平成24年度の特定健診対象者数8,578人、受診率が46.4%、これを50%にして、あるいは60%以上にしていくことによって、この早期発見・早期治療で医療費も少なくなりますし、本人にとってもいいと。それをどうつくり上げていくかということだと思うんですね。

今ほど課長のほうから先に答弁が出ましたけども、受診率は平成24年度は、今言いましたよう

に46.4%なんです、その後、どんなふうな動きになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

特定健診に限ってでございますが、当市の受診率につきましては平成21年度から22年度までにつきましては、40%をちょっと切れる38%で推移しておりましたが、23年度につきましては40%、24年度におきましては43%、25年度につきましては、まだ正確な数値はできておりませんが、先ほど申しましたように未受診者への受診奨励等を行うことによりまして、50%前後にいくんではないかという今現在の見込みでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

先ほど私が言ったのは事務報告の数字ですので、どちらがどういう区分けの仕方をしているかわかりませんが、とにかく受診率のほうを上げるということが大事だというのは、これは長野県の松川町、前回の一般質問で言いました。受診率50%を超える年が5年間続くと、医療費も下がると。隣の池田町では、6年前の特定健診54.6%で、一昨年の受診率で65%に上昇したと。54.6%から三、四年で65%に上昇して、その結果、脳や心臓の血管の病気が大幅に減って、2012年度、おとしですよね、医療費は前年度に比べて半分近く減ったと。受診率アップの努力というのは、受診率が上がれば上がるほど、放物線状を描いて医療費の削減につながってくるということですので、ぜひ今努力されておりますけれども、それが50%を超えて、60%を超えていくように、取り組みを強めていただきたいと思います。

健康づくりで少し伺います。

健康のための3原則というのは聞いたんですが、適度な運動、入浴、定期的な点検、身体整備と伺いますか、それが健康のための3原則だと。身体的な面からでありますけれども、適度な運動がなぜ必要かということになると、酸素と栄養を体の隅々まで運び、老廃物を回収して血液を心臓まで戻すために適度な運動が必要なんだと。心臓は送り出すポンプでありますけれども、戻ってくるポンプがない。それが足であって、足の筋肉を活用したりカバーして戻すようにしてると。それがないと血流が悪くなると、だから適度な運動が必要なんだと。一般の方ですよ、年齢に応じて、いろんなやり方があると思うんですが、それが畑へ行くことであったり、買い物に行くことであったり、1日に何千歩歩くというふうな、そういう言い方されていることだと思うんですね。そういうふうな取り組み、それを頭に置いた、誰もが取り組めるような取り組みというものを、やっぱりやっていく必要があるんじゃないかということをおっしゃっていただいております。

75歳以上の方の医療費を無料にしている東京都多摩地域の日の出町という町では、健康増進と医療費助成を車の両輪で運用しているということでもあります。糸魚川市もやっているとありますが、元気の種まき事業ということで、里山ウォーキング等を行っているということでもあります。当

市もいろいろな取り組みを行っておりますけども、全市民が、誰でも気軽にできるようなそういう取り組み、それを広げようとしてやっているような事業がありましたら、聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

まず、誰もがということであれば、私ども、ことしの4月に募集させていただいておりますが、チャレンジ事業ということで、いろいろな取り組みの中で気軽に取り組めるものを選んでいただきまして、それに向けて半年間の期間でそれぞれ目標を立てていただきまして、クリアできる・クリアできないという部分の設定の中で進めさせていただいております。これについては、昨年度もやっていたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

認知症の方には大きな影響があると言われていた要支援等の軽度の方を、介護保険から外すという動きがございます。どのように捉え、対応しようとされているか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

要支援の方で通所の事業、あと訪問介護の事業を受けていられる方につきましては、給付費から抜けるのではないかとというふうには国のほうでは示されておりますが、まだ3年の猶予がございますので、その部分ではケアマネジャーさんからの意見聴取、また、事業所さんとの意見交換をする中で、決めていきたいというふうには考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

財政力に応じて非常に差ができるということで、憂慮されていることではあります、とにかく軽度の方への対応が後退することのないように、ぜひ対応していただきたいと思います。

クリエイトワンフーズの関係で伺いたいと思います。

今回の件で大きな外的要因としては円安があると思いますが、外的要因・内的要因についてどのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

やはり原材料の高騰、それから為替レートの激変というのが、一番大きな要因だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

市は農業振興地域を外し、貸し付けを前提の企業団地にするため、宅地価を基準に水田を購入いたしました。造成がほぼ済んだ時点で、抵当権設定されている土地2,487平方メートルを真ん中にして、南側に市の土地2,200平方メートル、北側に市の土地2,581平方メートル、全体で7,268平方メートルが、一面として造成された状態にあります。現在のままでは、工場団地として企業誘致できる状態ではございません。

今回のクリエイティブワンプーズの件で、判断が正しかったとお考えかどうか、市の対応に甘さがあったとは思わないか、その点について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご承知のとおり糸魚川市には、今、工場団地といえるところが多くございません。そういう中で企業誘致するときには、今現在、保有してるところを紹介しながら、やはり企業に合ったところを紹介するわけであります。そういう中で、今定例会の一般質問の中にもあるように、多くの雇用を生み出すというのは、やはり非常に大きな魅力であるわけでございますし、その対象企業がチャンスという形の中で持ってくる情報について、いかにご支援をされるかというのを、やはり短期間の中でまとめていかなくはいけない部分がありました。

そういう中において、結果的に非常にご迷惑をおかけしたということについては、その辺のところには甘さがあったと捉えるしかないなと思つとる次第であります。しかし、そのような状況の中で判断をし、こういう結果になったことはおわび申し上げますが、これからもやはり企業誘致する対象の企業に対してのビジネスチャンスを逃がさないようにしていくのも、また、対象企業の有利になるように運ぶようにしていくのも、企業誘致の大きな条件でなかろうかと思つとる次第でございます。こういったことをやはり大きな経験とさせていただいて、これからも取り組まさせていただきますようお願いしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

問題は、私が考えるのは、親会社である東食品の経営内容が議会で明らかにされず、ただ健全な経営内容だと、信用してほしい。信用してほしいとは言わなかったと思いますが、そういうふうな旨でやってこられたということではないかと思うんですね。いかがですか、経営内容についての資料は議会へ出されましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

東京商工リサーチのほうの財務状況の中では、3年間の財務諸表を確認する中で、評点等も参考にしながら経営には問題がないということで判断してまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

決算については市内の会社等でも、概要を公表している会社があるのではないかと思うんですね。ホームページに載せている会社なども結構あるのではないかと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

そういう企業もあろうかと思えますけども、今回のクリエイトワンフーズにつきましては、親会社である東食品の3年間の財務諸表の中で判断してまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

そういう資料は、議会へ出されましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

個々の企業の財務諸表でありましたので、特に議会にはお示しをしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

市で補助金を出す場合、例えば政務活動費、議員1人当たり18万3,600円であっても出納簿、収支報告、領収書、活動報告書等を出さなければなりません。これは公開されております。一

般の補助金であっても活動報告、収支報告は必要であります。企業誘致の場合、さまざまな優遇措置があります。少なくとも1億7,000万円の造成関連予算をかけるのであれば、決定過程の透明性が確保されていなければ、対応に問題はなかったというふうには言えないと思います。

6月6日付の新潟日報では、株式会社クリエイトワンフーズの親会社である株式会社東食品が、負債総額20億円で事業停止、従業員は5月30日付で全員解雇されたと報じられております。借金等、経営に及ぼす影響を調査をしなかったのでしょうか。今後のことを考えれば、決定過程の透明性を改善しなければならないというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

なかなか行政の事業の中において、そういったのは詳しくない部分がございます。そういう中で、新規会社ということの中で、親会社の財政状況というのは非常に重要だと思っておりますが、しかし、企業に対してのまたそういった融資制度を考えたときに、また金融団の調査というのがあるわけございまして、そういったものを我々は見ながら連携をさせてもらった状況ございまして、結果的には当然、市の責任はあるわけございまして、そういった自分たちでできないものは、他の団体のそういったものを判断しながら、させていただいてまいった今回の事件でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

1点、訂正をさせていただきます。

私のほうで財務諸表という言葉を使いましたけども、東京商工リサーチの企業情報、私どもはTSRと言っておりますけども、その企業情報で確認してまいったということでございます。訂正させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

20億円の負債総額になるということではありますが、市税を滞納した状態で企業誘致の支援をするということは、これはあり得ないと思いますけれども、現状ではどういうふうになっているのか。この2つの時期の市税の関係はどうなっているか、市は債権者かどうか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

岩崎市民課長。〔市民課長 岩崎良之君登壇〕

○市民課長（岩崎良之君）

今の件ですけど、お話があつて進めた段階では、市としては滞納等はありませんでした。
現在の状況につきましては、特定企業の状況ですので、公表は控えさせていただきたいと思いま
す。よろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

市は債権者ですか、債権者でないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

岩崎市民課長。〔市民課長 岩崎良之君登壇〕

○市民課長（岩崎良之君）

企業進出のお話のあるときは債権者ではありませんでしたが、現在は債権者です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

株式会社クリエイトワンフーズの新工場建設に当たり、金融機関から市が土地を用意し、協力する
なら、融資するというような条件が出されていたというようなことはありませんでしたか。そう
いうことはなかったですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今まで一連の企業誘致の作業を進めてまいりましたが、私の段階では、そのようなお話は一
切聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

真ん中に抵当権設定された土地がある状態で、親会社である東食品も実質、倒産状態となりまし
た。今後、この市の土地をどうするお考えか、お聞かせ願えますか。塩漬け状態は何年ぐらい続
くとお考えでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

真ん中の未買収土地の用地の取得につきまして、今、交渉を重ねておる最中でありますので、そ

の用地を取得して、一団の団地として企業誘致活動をさらに進めてまいりたいというふうに考えておりました、塩漬けの状態という今お話がありましたけども、新たな企業誘致がいつごろというのは、今のところはまだ見込みは立っておりませんが、工場断念をされた後も私ども誘致活動は進めておまして、何件かのご相談はいただいておりますというのは事実でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

事業停止というのは、どういう状態になりますか。管財人は置かれましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

6月6日に報道されました内容につきまして、皆さんご存じのとおりだと思いますけども、職員が全員解雇されて事業が停止というところございまして、その先の会社の整理の方法につきましては、まだ正式には聞き及んでおりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

情報を的確につかんで、対応してもらいたいと思います。

株式会社クリエイトワンフーズの親会社である東食品の従業員全員解雇ということですが、給料の未払い等を聞きます。どうなっているか、把握されておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今現在、ハローワークを経由しまして、いろんな諸手続を進めていただいている最中であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

倒産ということになれば、会社資産は従業員の給与に最優先で回されると思うんですが、倒産でない場合、例えば別の会社がそれを引き継いでいくというふうな場合、これは当然、その話もしなきゃならんわけですね。

市のほうもクリエイトワンフーズの新しい会社をつくるということでの、そういう支援でありますけども、その親会社である、もとになっている東食品との関係もあるわけでありまして、当然、ここの従業員の解雇という問題についても関係ないというわけにはいかない。やっぱり、きちんと

対応していただきたいと思うんですね。その辺については、どういうふうにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

先ほど申しあげましたように、職員の皆さんにはハローワークを経由をして、諸手続をしていただいておりますし、また、東食品のほうの情報の収集も、今、努めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

新しい会社ができるということで、高校を出てそういう会社を目指した方も、あるいはいらっしゃるんでないかというふうにも思うわけですね。とにかく市がそういうふうな関係で再就職、あるいは給料の未払い、そういう点についても積極的に、この役割を果たしていただきたいというふうに思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

議員のお話のとおりであります。できるだけ早く仕事についていただきたい。いわんば、またあの工場が早く稼働できるような環境になればいいなというふうに考えておりますし、市のほうとして、できるだけ対応はしてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

シルバーパスの制度であります。先ほどの答弁の中で、これを行うと1億2,000万円ぐらいかかるというふうな話でございます。

生活確保対策運行費補助金、これは特別交付税で6,000万円ぐら関係があると。高齢者おでかけ支援事業、これは1,300万円ぐら関係のほうで出てると思いますが、バス関係で、あるいは高齢者運転免許自主返納事業、

○議長（樋口英一君）

新保議員、時間がまいりました。

○16番（新保峰孝君）

またこの点については、機会を改めて質問させていただきます。

ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

○9番（伊藤文博君）

清生クラブ、伊藤文博でございます。

5人目でお疲れのところですが、よろしく願いいたします。

本日は、1、「チーム糸魚川」「チーム市役所」を軸とした地域活性化について質問いたします。

米田市長は、新幹線開通を契機としジオパークを核とした地域振興に全市一丸となって取り組むため「チーム糸魚川」を結成し、職員の意識改革を推し進めることで官と民が相互の力を十分に活かせる糸魚川市にしようとしています。それには「チーム市役所」という取り組みも重要となります。

チーム糸魚川の結成から約1年が経過し、新幹線開通まで10か月を切った今、チーム糸魚川のメンバーそれぞれの能力が連携により十二分に発揮され、相乗効果で成長していく方向へ舵取りをしなければいけない時であると考えます。

チーム糸魚川とチーム市役所の取り組み状況や今後の方針について質問いたします。

- (1) 「チーム糸魚川」の現状と課題、対応策はいかがでしょうか。
- (2) 「チーム市役所」の現状と課題、対応策はいかがでしょうか。
- (3) 2者連携の現状と課題、対応策はいかがでしょうか。
- (4) 市職員が、あらゆる場面で民間企業・団体、市民の意見を十分に聞いて、建設的態度に終始することができていますか。
- (5) やる気のある若手職員を育てる、最低限、若手職員のやる気を削がない組織運営ができていますか。
- (6) 民間側のやる気を十分に活かそうとする職員の取り組み、民間側のやる気が実を結ぶような取り組みができていますか。また、そのような人員配置、組織づくりができていますか。管理職の対応は十分でしょうか。
- (7) 「チーム糸魚川」の各団体では、組織全体の意志徹底がなされていて、本当のチームの一員となりえていますか。
- (8) 「チーム糸魚川」として、日常的に意思の疎通が図れる仕組みが作られ本当のチームとなり得ていて、短期・中期・長期に効果を発揮する取り組みが期待できるのでしょうか。

以上、1回の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、23団体から参加をいただいております、そのうち16団体

からなる幹事会において、26年度事業の取り組みについて協議をいただいております。

その1つとして、現在、糸魚川応援隊の募集を行っております。各団体が精力的に隊員獲得に取り組むことにより、チームワークを高めていきたいと考えております。

2点目につきましては、庁内が連携した市政運営に努めてきたところではありますが、より一層の連携が必要と考えており、全ての職員にチーム市役所との意識が浸透するよう努めてまいります。

3点目につきましては、市役所はチーム糸魚川の呼びかけ人であることから、率先して事業に取り組んでまいりたいと考えております。

4点目につきましては、職員に対して市民とのコミュニケーション能力の向上、及び地域活動への積極的な参画により市民の意識にじかに接し、職務に生かすよう促しております。

5点目につきましては、特に若手職員に対して重点的に研修を実施し、人材育成と組織の活性化を図っております。

6点目につきましては、職員研修等により意識改革、庁内連携、風通しのよい職場づくりに努めてまいります。

7点目につきましては、団体内の意思統一が図られるよう、幹事会を通じてチーム糸魚川の意義を確認するとともに、協力を呼びかけてまいりたいと考えております。

8点目につきましては、各団体の情報を共有するメーリングリストの運用を開始いたしましたところでもあります。情報を共有することにより、チーム糸魚川としての一体感を醸成し、チームワークを高め、次のステップとしては産業おこし、定住、交流人口拡大など、プロジェクトの取り組みを考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

1から8までは関連しますので、質問が前後することがあると思いますが、よろしくお願い致します。

行政改革大綱には、チーム糸魚川の推進として各種団体や行政が一体となって、定住人口の維持と交流人口の拡大により、30年後も持続可能なまちを目指しますとあります。

チーム糸魚川の発想は、これは素晴らしいと思うんですね。しかし、これを機能するものにするには大きな努力が必要だと考えますが、どう捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、非常にこれは大変なことだろうとは私も捉えております。

やはり今までのいろんな事業、また、我々の課題を考えましたときに、一体感を市民の皆様方と

十

行政がしっかりと行わなければ、いろいろなものの目的が達成できない。そういう中でチームワークを高めることが、やはり一番大切と捉えて、今、取り組まさせていただいてるわけでございまして、我々といたしましても、なかなか難しいことであるわけでございますが、挑戦をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

まず、糸魚川を何とかしたいという気持ちは、誰もが同じようなものを持っているんですよね。しかし、それだけで連携をとって日常活動をしていくということは、非常に難しいことである。それができるぐらいだったら、改めてチーム糸魚川という取り組みは必要なかったわけですが、いろいろな方が、それぞれの立場や考え方で地域振興に取り組んでいるものが、横の連携がなかなかとれないという中で、チーム糸魚川という発想ができ、今度はそこからまとまりだけではなくて、お互いの力の連携によって、より大きな力を発揮するということが期待される。本当の1つのチームに糸魚川市全体がなるというところまで考えていくと、非常に理想的な姿なわけですが、しかし、その思いを現実にする事の難しさというのは、今、市長も語られました。

その高い山を、何としても越えようとする強い意志と覚悟が必要である。その難しさを全員が共有して持っていて、志としてそこを越えて1つのチームをつくり上げるという覚悟は本当にできているかどうかですね。認識はどうでしょうか、職員の皆さん。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

市の行政目標に向かって、日々業務をしてるわけでございます。そういう中で市長がおっしゃっておられますチーム糸魚川という形で、市民と市役所職員が一体となって地域振興に努めていくということが、非常に大切であります。市長が今おっしゃられましたように、非常に難しい課題ではありますけれども、庁内においてはチーム市役所ということで職員が連携をさらに強めて、それぞれの役割が重なり合って業務が遂行されているわけでありますので、その仕事のつながり、業務の流れ、こういうことを意識しながら取り組んでいこうということで、現在のところ道半ばの部分もございまして、一丸となって取り組んでいくことが、先ほど来、ほかの議員さんの話題にもなっております人口減少対策等、当市の大きな課題に取り組んでいく基本となるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そういう考え方は概念として、これは多分みんなが理解できるけど、本当にそこを乗り越えてい

くというのは、相当な覚悟が要りますよ。そこのところを問うておるんで、これからの質問の中で提案をしていきたいと思っていますが。

まず、公務員の心得とは何かということ、チーム市役所という考え方なんですけど、いろいろな言葉がありますが、例えば誇りと使命感を持って国家と国民の役に立つ、尽くすこと。これは糸魚川市と市民の役に立つこと、尽くすことということになると思うんですけど、どこまで踏み込んだ取り組みをするかということが、非常に大切であります。

庁内の異動によって次の担当者に対する配慮により、ほどほどの対応にとどめてしまう。次の担当者のやる気が、これは1つの課題となってきますが、つまりここを打開するには、全員が同じ方向を向いた取り組み、全員が同じ方向で、同じような熱意で仕事をしているから、自分が熱意を持って取り組んだものは、次の担当者が必ず引き継いでやってくれるんだというような信頼関係が生まれてこないと、なかなか全力投球できないというようなことがあると思うんですね。やっぱりこういう状況というのが、今の多分組織の中であると思うんですけど、これを本当に打開していくのは、相当なエネルギーが要る。こういうことを、ちゃんと考えられていますでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほどのご指摘のように、今、いろんなところで、いろんな活動もしているわけですが、これから今までの一般質問の中にもありましたように、より以上のものを、これから求められるわけです。それを少なくとも今以上のことを考えるには、今までと同じことではだめだということから、スタートをさせていただいてのわけです。それには、やはり市民と一丸となっていく、そしてまた市役所も一丸となっていくというところで、今、チーム糸魚川であり、今、議員ご指摘のチーム市役所なんだろうと思っただけでありまして、でありますから1つの目標を、今、立ち上げさせていただきました。

確かに今まで、それは逆に大変なところで、それはもう基本だろうというようなことで、思っている部分だけでやってきたんですが、もっと明確にしてそれに向かっていこうというような形で、今、取り組まさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

チーム市役所という現状、課題に対して、やはり縦割り弊害の排除というのは非常に大きなポイントだと思いますが、これは形づくられた会議ではない場面が、非常に重要になってくると思う。さまざまな場面で、関係する必要な人々が臨機応変に集り、協議できるような体制というか体質ですね、習慣が必要である。話し合いの内容を知っている必要がある人がその場にはいないと、最も重要なことは後でもう1回話をして伝える、これは熱が伝わらない。これは最も重要なことです。それから再度、話をするによって落ちることもあるし、それから後手を踏む。いつでも声かけを

すれば、可能な限り集まって協議する。柔軟でフットワークの軽い対応が必要だと思いますが、このような考え方ってどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

1つの事業に取り組むときに、庁内が連携をして取り組まなければいけないと、市長からは市政運営会議、また部課長会議の場で指示を受けております。こういう定期的開催される会議の中で情報を共有をして、方針の決定、また、意思の共有を図ってまいるといってございませう。

また、課におきましては課内会議、係内会議を、これも随時、あるいは定期的開催をして、職員のコミュニケーションを図る中で情報の共有をし、また、応援体制を組んで事業に取り組むように、そういうように職員に促しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

その範囲だと、縦割りの中なんですよ。それで例えば総務課で協議会をしていると、そのときに産業部のかかわる仕事から部長を呼んでくる、商工農林水産課長を呼んできて、担当の係員も呼んで一緒に協議をするというような、フットワークの軽い体質をつくっていかなくちゃいけないということだと思んですけど、意味が違う。その範囲は、あくまでも縦割りの範囲です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

それぞれの案件については、課題解決のために非常に難しい状況のものがたくさんあります。その状況に応じて、当然、係、課でいろんな業務の打ち合わせ等をやっておりますが、大きな課題で解決が非常に難しいものについては、当然、部を超えた協議をやっておりますし、各部長がそれぞれの状況に応じて対応し、部を超えた連携をするように、そのようなコーディネートの対応をいたしております。そういう中でチーム市役所として、連携した課題解決に当たっていかうということでの取り組みをいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

我々から見ても、市民一般の市とかかわる人たちからも、そこはやっぱり弱いんですよ。だから

今言われるような、僕が言ってるのは会議というような枠じゃないところで、臨機応変に対応するような体質が必要であるということですから、今後、ぜひ取り組んでいてもらいたいと思います。

横の連携がうまくいってない例として、先ほどちょっと担当課のほうに話しておきましたが、きのう行われた、ヒスイの里山岳マラソン。私も前日の土曜日に気づいたんですけど、何と市のホームページのトップページから入るイベントのところですね。すぐ月間イベントカレンダーというところに入れるんですよ。載ってないですね。15日、日曜日は、海谷溪谷ジオサイトジオパークツアーだけ載っていて、消防団の訓練も出ていませんし、それからヒスイの里山岳マラソンも出ていない。市のホームページの中で、ヒスイの里山岳マラソンと検索かけると、去年の結果は出ておりますね。ことしの予定はゼロ、全くチーム市役所は機能していないんじゃないかというふうに言われると思いますよ。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

ご指摘の点、私、昼休みに確認をいたしました。トップページから入ります市のイベントカレンダーのところには、確かにございませんでした。この掲載については、各課各担当係が記事を作成をして、そこにアップするという事となっておりますが、漏れている部分がほかにもあると思いますので、そういうところは総務課の広報情報係で、もう一度全般的に見回して確認をしていく。漏れているものがないのか、あるいは古いものが、更新されていないものがあるのではないかと、そういうチェックを再度いたしたいと思っております。

なお、観光情報からいく年間のイベントカレンダーのところには、山岳マラソンは載っております。また、これをリンクさせて、市民から見やすくなるようなホームページの内容にしていきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そのページの不備は、たまたまあったかもしれませんが、ただ、やっぱりそれがチーム市役所ができてない、もうそのあらわれだということになると思うんですよ。だから横の連携のとり方、縦割り弊害の排除なんていうのは、もうずっと言われてきたわけですけど、本当の意味で、チーム市役所が機能するようにはしてほしいということで質問していますので、そこがだめだ、だめだというふうに責めるつもりは全くないんですけど、やはりそれが1つの例であるというふうに考えています。

やはり自分が知っていればいい感覚の人、自分の担当の部署、自分が知っていてやれば、それで実行できると思ってる人は、必要な情報提供や共有ができにくいんですよ。これはそういう人は、なかなか変わることができない。そこで個人差の生じないシステムだとか、プラスそれぞれの思いや意識での、他人の不足を補うほどの熱意ある取り組みが必要になってくる。そうしないとチーム

糸魚川として、なかなか機能しないと。ここはやっぱり意識改革から生じてくると思うんですけど、こういうことについてはどう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり縦割りという1つの見方を見ていくと、今、議員ご指摘のところもあると思うわけでございますし、公務員としての研修というものを通じて職員が成長して、またその職務に当たっていくんですが、しかし、なかなかそれでいくと変わらない部分がございますので、今、ご指摘の点だとか、やはりこれからの新たな展開の中で、大きな役割を各地方の都市がやる中において、公務員の果たす役割というのは非常に大きくなってくるんだろうと思っております。

そういうときに我々は、それに応えていけるような公務員になってもらいたいという形では、新たな気づきをわかるような、これから講習とか講演会とか、逆にそういうものを意識的に選んで講習をしながら、気づきをやはりしていかななくていけないんだろうと思っております。そのようなことで、ここ一、二年前から、講習会、講演会のやはり内容を変えさせてもらっている部分もございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

市役所がチームとなり得るかどうかですね。チーム市役所という考え方というのは、これは誰もが認める非常に聞こえもいいし内容も伴ってくれば、ぜひそうなってほしいと思うところである。しかし、これもチーム糸魚川と、ほとんど同体ですよ。やはり実現することは非常に困難であるし、言葉やキャッチフレーズだけに終わらないようにするには、やっぱり相当な努力が要る。だから、そのチーム糸魚川ということに対して、改めて取り組んでいく仕組みみたいなものが、今までの業務の中でチーム糸魚川という考え方を取り入れていくだけではなくて、やはり何かそこに1つ地に足を踏ん張って、何か考えていかなきゃいけない。やっぱりそれをやるだけの覚悟が要ると思うんですよ、やり遂げるという覚悟です。このままいくとずるずると、日常業務の今までのやり方の中で、考え方だけが上滑りしていくというようなことになりかねないんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり私もそのような危機感を感じております。練り上げて、そういう形をつくって、こういう活動をしていこうというところまではいくんですが、一旦できてしまうと、その枠の中でとどまって

しまう部分があります。我々は、その枠の中のそういったものをつくるわけではなくて、その背後にある目的があるわけでありますので、それに向かっていかなくちやいけない部分があるんですが、なかなかそういうところについてないのも現実であると思っております。

やはりどうしても年度という1つの枠の中でとどまる部分もあったり、そういう非常に今までの長い、これはいい面もあるわけでありますが、しかし、悪い面がそういうところに、随所ある部分があると思います。その辺を、どのようにそれを超えていけるか、それをやはり排除できるかというのも、このチーム糸魚川やチーム市役所の中で、取り組まなくてはいけない点だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

本当にそのとおりなんですよね。だからチーム糸魚川化のためにも意識改革が必要である。そういう意味で、市長の公約もあつたんだと思うんですけどね、職員から見れば意識改革云々と言われても、何をどう改革すればいいかわからない。現状の何が不足で、あるいは何が悪くて、どう変えていかなければいけないかというところがはっきりしないと、意識を変えてみようもない。みんなそれぞれ一生懸命やってる、おれだって一生懸命やるとるわねという話の中ですから、それが明らかになってるかどうかです。行政改革の中で意識改革を言ってますが、さあ、意識改革の必要性というものが、果たして具体的に提示されているかどうかですね。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

一口で意識改革といっても、なかなかわかりづらいところもありますけれども、それぞれの業務の範疇がどのようにつながって、市民の幸せのために市の職員が仕事をしてるかというところでは、繰り返しのそういう気づきだと思っております。気づいて、さらにそれを克服するために学んで、また、多くの皆さんとそれらの気づきについての知恵をもらったり、あるいは自分では気づかないところを、ほかの方から教えていただいたりというような形での気づきの繰り返しと学びの繰り返しを、本来の市の業務の目的とするところに向かってそれぞれが考え、それぞれが議論しながら意見を出し合って進めていくというところが、意識改革の1つの方法ではないかというふうに思っております。

そういうことについては、繰り返し庁内での若手の職員の研修の機会、あるいは日常業務の中で部課長が話をさせていただいておりますけれども、そういうものも繰り返し、繰り返し組織の中で対応していくということで、意識の改革を1歩1歩進めていくということを継続的にやっていくことだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

またちょっと繰り返す形になると思いますが、2者連携ですね。まちづくり、ものづくり、地域活性化に取り組む人たちが、市役所の担当部署の人と話をしていると、横のつながりの不足を感じることがよくあると、それはいろんな人から聞きます、そういう話を。同じようなことをやっているほかの担当課のことを知らなかったとか、こういう話は私もここでも何回もしてるんですが、チーム糸魚川内の連携とチーム市役所内の連携は、実は別々のものではなくて、一緒に組み上げられていくもんじゃないかと思うんですね。ですからチーム市役所という意識を高めていく過程が、チーム糸魚川の意識を高めていくというようなことになっていくというふうに思うんですけど、そこをやはり別々じゃなくて、一緒に考えていく考え方というのは重要だと思いますね、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、そのとおりだと思っております。私は市民の、また、地域の活性化を考えたときに、やはりプレーヤーは市民で、行政はサポーターだという形で、ずっと進めてまいったわけですが、そこでここへきて、なぜ行政の意識改革を入れたかと言うと、やはり市民が熱くなるのも、行政もやはりいろんな面で指導的などころがあるわけですが、そういうときに、やはり行政も熱くなっているのに、相手が熱くなるわけではないわけがあります。

ですからジオパークでの交流人口の拡大についても同じことで、よそからおいでをいただいた人たちがなかなか感激しないのも、市民が自分たちのものに対して感激や感動もしていないのに、それができないだろうという形になるわけがあります。その同じ構図が、やはり対市民に対しての行政の考え方になるわけがありますので、やはり本当に熱き心に燃えて、この糸魚川市の地域の活性化や糸魚川市はどうあるべきかという、燃えるような職員が必要になるわけがあります。それが多ければ多いほど、やはり住民や、その市の活性化につながるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

私もよく言う熱伝導のところですよ、やはりそこがしっかりしてないとだめだと思います。

チーム糸魚川は企画財政課、チーム市役所は総務課と言いながら、実際には、これはもう一体のものだとすると、市の職員は全員チーム糸魚川の一員である。どうもやはりチーム糸魚川というと、庁外にできた各種団体の連携団体、グループであって、チーム市役所は市役所、そういう感覚になりがちなんですけど、これは違うと思いますね。市役所の職員は全員、チーム糸魚川の一員である。果たして職員は、そういう意識を持っていますか、今の段階で。これからまた変えていけばいいんですけど、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

冒頭、私のほうでもちょっと発言しましたけれども、チーム市役所、チーム糸魚川としての取り組みはまだまだ道半ばで、じゃあ市役所職員全体が完璧に浸透しておるかというところは、まだまだ伝導が伝わっていない部分もあるということで、今後も取り組みをしていくということでの、まだ道半ばということでご理解をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

これからどうしようかという話で、今回、質問してると思っていた方がいいんですけど、部課長は会議の中で、やはりチーム市役所という話がどんどん出てくる。ところが課長が課に帰って、どこまで浸透させることができるか。チーム市役所という考えですよ、チーム糸魚川ではなくて。それすらも、やはり今の段階では厳しいものがあるだろうと思いますね。

そういう現状を踏まえた中で、市職員と市民との対応のところなんですけど、市職員が日常的に行政の立場でものを考えているのと、民間側が日常生活や経済活動の中で現状を受けとめて、問題意識を持ったり、どうあるべきかを考えたり、よい手法をアイデアとして持ったりするところには、食い違いや隔たりを生ずるところも多いと思います。

法律、条例等で縛られたものと、全然そういうものにこだわりなく考えているものでは、当然、そごが生じる面もあるでしょうね。だからどちらが正しいかは一概には言えない。しかし、どちらもお互いの立場に立って意見を聞いて、最もいい方向を探らなければならないということだけは確かだ。法律や条例、規則に縛られているとさっき言いましたけれども、その範囲の中で柔軟な対応が求められると。

しかし前例がないことや、それから逆に慣例に縛られたりというようなことの中で考え方に制限が出てきて、ここの答弁でもよくありますよね。県内20市の例を云々、先進事例とかという発言が多くみられるように、なかなか発想の転換に結びつかない。みずからが先進事例になろうという気概が不足しているという感じを強く受けますね。この辺は、どう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

1つの事業を行うときに、行政と民間、市民が一緒になって、それぞれの立場で知恵を出し合っ
て、1つのものに対して考えていく。お互いの不足を補いながら進めていくということが、大切だ
と思っております。

その中におきましては、市が計画を立てたものが、そのまま市民の意見を聞かないで押し通すこ
とのないように、また、市民の方々への事業説明会、ヒアリング、そういうものの機会を通して意

見をお聞かせいただく、意見交換をさせてもらおうということを進めておるところでございます。

ただ、先ほど話がありましたように、ある程度の事業におきましては、さまざまな条件をクリアをしなければいけないということもございますので、市民の皆さんのご要望が、そのまま事業に反映することが難しい場合もあります。そういう場面につきましては、よく状況、また条件、そういうものを説明をして、ご理解いただけるような十分な説明を繰り返し関係者の皆さんに行っていくという、そういう取り組みが大切だと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

やっぱりそういう話を受けたときに、市の職員に建設的な態度があるかどうかということが、大きな違いだと思うんですよ。できる、できないは、その結果である。どうもそのできない理由をぼんぼんぼんぼん出してくるような人が、結構いると思いますよ。でも、本人はそう思っていないですね。自分は考えてるとずっと言ってるけど、もう否定、否定、否定になっちゃって、マイナス思考の人だねっていう話になっちゃう。

組織を建設的な発想、姿勢を持った集団にかえるということは、非常に大きなエネルギーが必要とされますね。そのエネルギーは情熱から生まれる。それも一時的な情熱ではなくて、粘り強さが要求されると思います。糸魚川市役所という大きな集団にとって、それはどこから発せられ、どのように伝達され、そしてどのように維持されるべきでしょうか。ここは大きな源ですよ、どうぞ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もそうだと思います。それは事柄によって私は違うと思います。発信する場所は、やはりその事柄によって、その内容によって、事業によって出ていくと思うわけでありますが、やはりそれがなかなか、私はまだまだと言いましょか、私はまだまだ本当にそうやって動く職員のほうが、少ないんだろうと思っております。まだまだやはり自分たちは公務員なんだという意識が、しっかりとよろいを着たような形になっている部分が、多くなってるわけでありまして。

しかし、前段での一般質問でもあるように、今はそういう時代ではないんだぜと、もうこれからの5年、10年、15年先はどうなるんだというこの時期に、やはり今やらなかったら、それは大きな事柄になってあらわれてくるんでないかという危機意識が大切であるわけでございますし、私も昨年の大きな節目のときに、そういうものを感じたわけでありまして、もし自分が、そういった仕組みをしっかり構築できているならばさらにいいんですが、そこまで出てないにしても、やはりそういう危機意識を感じたときに出しながら、職員とともにそれを乗り越えていきたいということで、今、チーム糸魚川であり、チーム市役所であると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

ここはまさに意識改革であって、それで私がいつも言ってます熱伝導で、熱源はやっぱり市長だと思うんですよ。その市長の熱をどう伝えられるかが重要である。直接伝わる場面をふやすべきだとは思いますが、間接的に伝わる場面が実は重要だと考えるんですね。

市長と例えば職員でミーティングをして、そこで熱が伝わっていく。今度は、それをどう持続させるかですよ。やはり市長の熱が部長や課長たちに伝わって、それぞれが熱源となって職員全体に作用する。1人の職員に複数の熱源が作用するというようなことの中で、組織全体が熱を持ったものになっていくと。職員の意識を変えて組織全体が変わるには、そういう取り組み、過程が必要だと思いますけど、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

伊藤議員がおっしゃられるように熱源の基本のところ、市長さんの熱い思いを直接伝えていただくこと。私どものような部長、あるいは課長が、その熱を感じて自分も熱源となって伝えていただく。議員がおっしゃられるような方法が、組織全体を意識改革していく大きな手法だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

具体的にどうするかですけど、何でもすぐ始めたらいいと思うんですよ、形づくらずで。待たなして取り組んで、やりながら改善して、失敗したら手直ししていく。意外と、思わぬような取り組みが生まれてくるかもしれませんよね。行政は、どうしても先に仕組みをつくらうとするので限界がある。それに時間がかかる、後手を踏むということになる。検討に時間をかけることが、できない理由を探る1つの行政特有のパターンにつながってしまうという傾向もあると思うんですね。まず、行動する。行動しながら、常に情熱を持って改善していくというようなやり方も、どんどん試していくべきだと思いますけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

現在の変化の激しい社会の中においては、先ほど言いましたように前例のない課題というのが非常に多くあります。その中では試行錯誤、やりながら考え、またその中で気づいた点を直しながら、

そしてまた新しいものにチャレンジしていくということで、チャレンジをしながら、失敗しないにこしたことはないんですけども、小さな失敗を繰り返しても新しいものにチャレンジしていく、そういう取り組みが、意識改革の中で非常に必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

やる気のある若手が、これまでの慣例にとらわれない発想で上司に提案すると。上司は前例がないとか、これまでのやり方と違うとか、あげくの果てに、これまでこうやってきたんだから、そんなことは考えんでもいいというような話だってある、そういう話を聞きます。過去のやり方を粛々と踏襲すれば、公務員の役割を果たせると考えているという傾向があると思うんです。ここを何とか打開していかなきゃいけないんですね。

職員と話をしますと、若手はやる気があり、何とかしたいと、しなければならんと思ってるんだと、僕の話なんか聞いた職員がそう言う。だけど抵抗勢力がいるんですよという話、組織の中でそれが誰かっていう話はしませんよ、ですけどそういう形がある。それは1人じゃなくて、組織としての抵抗勢力かもしれない。こういう現状をどう捉えますか、それをどう変えていくかということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も職員と結構会話するのが好きで、いろんな職員と話をします。やはり職員は、いろんなそういったハードルを言います。当たり前じゃないかと。ハードルがなかったら、みんなやってるよと。そのハードルを、みずからがどうやって越えるかを工夫せえと。そのハードルが低かったら低いほど、この結果はよくないよと。高いハードルほど、乗り越えることが大きな結果につながるんだぜと。そのハードルを、みずからの今の組織のハードルの中で越えられなかったら、やはりよそのハードルなんかも越えられるわけじゃないかと、よくそういう会話をさせていただいております。やはり当然、それはあってしかるべきだと思うわけでありまして。そういういろんな条件や可能性、そういうものを説得できるだけのものを自分たちがつくれと。やはりそういったものをつくること、これはもう行政の仕組みだろうと思っております。いろんなハードルがあるのを、それを乗り越えることが、私は大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

市長、それは例えば財源の問題だとか、制度上の問題とか、そういうハードルならいいですよ。それはやはりさっきから言ってるような、上司がもう前例のないことはやらない、新しいことに取

り組まない、前のおりやっついていけばいいというハードルだとしたら、そうじゃないというところへ持っていかなきゃいけないでしょう。それは財源まできっちり用意して提案してきなさいというのは、それは職員を鍛える話ですからいいと思いますよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いや、それ以上だと私は思っとるんです。要するに表立って、それは誰が見てもやはり1つ通過していかなくちゃいけないものもあるだろうと思うわけでありますが、もしそれがだめだったら、どういう方法があるんだと。それは自分たちのやってる仕事なり事業は、自分の子供と一緒にだろう。それを生まなかったら自分の職務に全うできないというぐらい、その思いがあったら、それをどうしてもつくりたいという気持ちがあったら何が何でもやるという。それをどうやったらできるか考えることが大事だろうと。もし、行政でできなかったら民間へ持ち込むだとか、また、いろんなやり方だってあるわけですよ。そういったところを研究して、だめだったら常にそういうのを頭に想定しながらいろんなことが、民間だったらやってるぜという話もさせてもらっています。

ですから、これは1つの職員との会話であるわけでありますが、当然、そういうハードルをどうやっていくか、直接、逆には市長のそこへ持ってくる方法だってあるだろうと思うわけですよ。だからそれを手順どおりやっついていながら、1本の道だけではないというのを理解してもらいたいという話を、よくさせてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

その1本の道だけじゃないということが、職員に浸透するということが大事だと思うんですね。例えば年功序列の人事では、やる気のない上司の下に配属されたら、これは悲劇なんですよ、さっきの話です。しかもその上司は、案外自覚がない、私だって一生懸命やってるという感覚ですね。部下は異動になるまで我慢するしかないというところから、何だ、大して頑張らんでも、務まるじゃないかということになっちゃうというようなところを、何とかしなきゃいかんということですよ。やる気のない人間にはというか、やらない人間には務まらないということが重要だと気づくと。先ほど市長が言われた、やる気があれば何でもできるだろうというところに、やっぱり制度的にももっていかなきゃいけない。人材の適正な評価と配置が重要だという考え方が、そこから出てくるわけですけど、年功序列をやめませんか、どうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

年功序列だけではないと思っております。やはりいろんな観点から判断をさせていただいて、結果は、そういうような見方をされる部分もあるかもしれませんが、決して年功序列を頭に置いて人事をいたしております。いろんな観点から、また、いろんな見方をしながらさせていただいておりました、それから出てくる問題、課題も、本当にやってみなければわからないようなところもあったりもして、皆様方は気づいている部分があるのかもしれませんが、我々は、してから気づく部分もあって、非常にいろんな事柄が起きているのもあるわけでありまして、なかなか失敗のないようにと思いつつ、いろんな事柄が起きるのも現実であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

課長、部長になると権限がある。課長、部長を前にして言うのも何ですけどね、考えた事業を展開することができるし、部下のいいところを生かすこともできると思います。

しかし定年を数年後に控えたその時期になって、年功序列でその立場になる。実力があればいいですよ。年功序列でその立場になっても、糸魚川市の将来を考えた積極的な一歩踏み込んだ取り組みができなくなってしまうということがあるとしたら、そのような人事を繰り返している限り、糸魚川市はよくなると思うんです。だから年功序列だけじゃないんです。ここに40代の課長がいたっていいじゃないですか。今後は、そういうこともやっぱり考えていくべきだと思いますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も40代、30代と限って言われると、ちょっと現実にはないと思っておりますが、しかし私は市長になって、今までにない取り組みをさせていただいたと思っております。全てではございませんが、おまえ、そんなことを言ったって、ほんの一部じゃないかと言われるかもしれませんが、そういう気持ちで取り組まさせていただいているのをご理解いただければ、ありがたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

茨城県牛久市の取り組み例ですけど、週3回の朝の会というのを9時からやってる。そこで市長、副市長、部長がいて、そこに職員が直接来て事業提案をする。財源までしっかり調べ上げて資料をつくってくると。そこでもう決裁を受けるという仕組みがあったそうです。もう勉強するし、企画力はつくし、先ほど言った財源まで明らかにするんで、本当に掘り下げた研究までしてくる。何より中間管理職の能力に左右されずに提案できるという強みがある。大変参考になる取り組みだと思います。

うんです。このとおりということではないと思うんですけど、やっぱりこういうことが職員のやる気を促進していく。

先ほど市長が言われた、道は1つじゃないというところを実際に仕組みの中でつくっていくということになると思うんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

非常に今お聞きして、すごいことをやってるなど感じる次第でございまして、またいろんなそういった情報なり見させていただいて、ぜひ自分たちも、もし生かせるものなら生かしていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

このあたりは、また行政改革の委員会でも取り組んでいくと思いますので、またそこでしっかりやっていきたいと思います。

今の話でもう1ついいところは、朝の会で提案しなきゃいけないというところがいいんですね。だから係長、課長を経由しないで、もうそこで持っていけるということが、1つ自覚も変わってくると思います。

民間との対応ですが、1つには行政側は、民間といいますと申請する側と許認可する立場という1つの構図がある。それだけじゃないんですけど、そうすると今度、市は市民側が提案したものを援助していく立場が多いですよ、先ほど言ったサポートする、プレーヤーとサポーターの立場。そういうところで、できない理由を並べる責任者がいるとしたら、これはやっぱりそこを改善していかなければいけない。何とかしようというところから入るわけですね、まず。そしてもう一汗かいて、庁内の横の連携より自分の課ではだめだけど、どここの課でこういうのがあるから、もうすぐじゃあ呼んできて一緒にやるというのが、さっき言ったような話につながっていくわけなんですね。今までにない取り組みをしようとする、考える職員を育てていかなければいけない。

そして、また一步踏み込む努力をしない人は、管理職になるべきではないと私は思うんですね。そして管理職になるときに、改めて管理職になる職員に覚悟を定める機会を与えるということも大事なことだと思います。ああ、おれの順番がきて、おれは係長になった、課長になったということではなくて、その課長になった節目に相当厳しいやはり覚悟を定める機会を与えるということが、非常に重要になってくるんじゃないかなと私は思うんですけど、どうでしょうかね。今、何かそういう制度はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

課長になったときに非常に大きな権限もありますけども、責任もあります。それともう1つは、やはり議会対応が一番大変だということでありまして、そういう点では大変大きな課題ではないかと思っております。そういったことで課長になればなつたで、非常に課長になる前とは、また違った大変さが十分あるということです。

以上です。

○9番（伊藤文博君）

いや、大変さがあるというだけで、答えになつたらんで、答弁になつたらへん。

○議長（樋口英一君）

答え、答弁になつたらんで。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

いや、それは課長になるのは、非常に大変だというのはわかつたんですけど、それをやはり本人に自覚してもらおう、改めてですよ。当然、わかつてることだろうけど、改めて自覚してもらって、それで例えばその課の課長だということのほかには他課との連携をとって、部長とのコミュニケーションをよくしながら、部下を上手に使っていかなきゃいけない。今までの数倍の仕事をしなきゃいけないということに対しての覚悟を定める機会を与えてやるというのが、課長になる人に対しても必要なことだと思うんですよね。なきゃないでいいんですよ、だから今後、考えてもらえればいいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

課長になりますと、やはり自分の課の運営をしなきゃならんということでありまして、職員も育てなきゃならんということで、非常に課長になった段階のときは大変重い責任を感じて、その辺のことは、なる前となつた後では、全然違うというふうに私は考えております。私自身も課長になつたときに大変重い責任と、それから宿題をもらったということで、そのときには十分感じたところであります。

したがって、皆さん各課長は、課長になつたときには、大変自分は重いものであるということで、その辺の責任と、それから課の運営をするということ、それから職員を育てるということで、大変重いものを感じているのではないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

それじゃあさつきと変わらんけど、まあいいわ。ですから、そういう機会をつくったほうがいいと思いますよ。それは例えば市長との個別面接でもいいと思うんですよ。やっぱりそのときに市長がどんな話をして、改めて自覚を促すかと、そういうことの機会を設けたほうがいいんじゃないですかということ言ってるんで。

答弁がありそうですから、どうぞ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えさせていただきますが、今言ったように、やはり公務員という形になったときから、課長、または係長というのを見てきてるわけでございまして、当然、どこかの配属になるわけでございますので、そういった1つのポジションを見てくるわけでありまして。そういう中で、長い間の中で、課長というものはどうなんだというのを考えてなるわけでありまして。

また、現在は部課長会議をやとるわけでございまして、その中でも、たびに、私はいろんな事柄を話させていただいております。そういう中においては、やはり事業の厳しさ、そして人事の厳しさ、また、いろんな話を時折々にさせていただいております。そういったところが、やはり自覚がだんだん高まってくる場ではなかろうかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

教育論みたいになりますけど、戦後教育の1つだめなところは、覚悟を定めるということを教えないことなんです。やはり我々は生きていく中で、いろんな節目のときに覚悟を定めるということを、やっぱり習慣づけていかなきゃいけない。市の職員の中でも、課長になるときの課長の重要性というものを、覚悟を定めさせてやる機会というのは、つくるべきだと思いますよ。ちょっとかみ合わないので、そこはもう通り過ぎます。

チーム糸魚川の会議にトップが出てきて、その後、組織内への浸透ができていないと。いまだにトップ以外には、今ごろまたチーム糸魚川なんてつくってという声があるのが現実です。これは聞こえてきます、我々には。これが全てじゃないですけどね、そうじゃない人もいますけども、そのような実態がある。本当のチームになり得ていないところを、今後、どうしていくかということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これからの活動の中において、やはり今言ったように職員、またそして当然、私も含めてなんですが出向いて行って、その辺の我々の考え方、このチーム糸魚川の考え方をしっかり理解してもら

えるように、やはり顔と顔を合わせながら、やっていかななくてはいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

市長が熱源となって、それを伝えていくという場面も、これは本当に重要ですけど、いろいろな段階の会議だとか柔軟な協議体、いろんなどこの話をする機会という、そういうものの形成によってコミュニケーションの徹底を図って、連携を深める中で、チーム糸魚川意識を高めていかなければいけない。先ほど言った市へ来て打ち合わせしてる中で、市の中で連携をとっていくことで、また市民側も、ほかの団体と連携につながっていくというようなことも含めて考えていく必要があると。

だからチーム糸魚川の会議を頻繁に開いたって、多分、僕はそれほど浸透という意味では期待できないと思うんですよね。それはそれで意味はありますよ、会議の意味がないんじゃないでなくて、ただ、チーム糸魚川が本当に形成され、末端まで浸透していくかということに対しては、もっと違う手法、あらゆる角度から、いろんな取り組み方をしていかなきゃいけないと思うんです。やっぱり2歩も3歩も踏み込んだ対応をしてほしいと思うんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに今までのような1つの取り上げ方では、いけないだろうという今のご指摘だろうと思えますし、まさしくそのとおりだと思っております。

いろんな会合の中において、ただ一人が、市長だけでやっとならばいいということではなかろうかと思うわけでございますので、その辺の熱い思いをみんなで出していかななくては、短期間には広がらないというご指摘だろうと思ってるわけでありまして、そういった仕組みが大事だと思っておりますので、そのようになっていくように、今、形を整えながら、進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

チーム糸魚川として、いつでも、誰もが集まることができる本拠地といいますか、何かやっぱりそういうものがあつたらいいですね。それが自然にどこかに定まっていけばいいかもしれませんが、それが柔軟なコミュニケーションのもとになっていくと。だから先ほど言ったような取り組みの中で、そういうものができていくかもしれません。

場としての核ですね、それから人として非常に熱意にあふれて中心になっていく核、人としての

核、そしてその人が、今度、組織へと発展していくというような広がり方が理想的なわけですよ。でも、やっぱりそういうことを念頭に置いて、いろいろな会議体のつくり方だとか、協議体のつくり方、協議の場のつくり方をしていかないと、取り組み方をしていかないと、なかなかそういうふうになっていかない。そのことをしっかり意識するというのが、まず大事だと思うんですね。

今、いろんな話をしてきましたが、これを具体的にしていくために、さあ、どうするかというところを、やはりどこかで本当に踏みとどまって、しっかり考えなきゃいけないと思いますが、総務部長、担当としてどうですか。要するに、実務者としてどうします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

チームワークを高めていくためには、1つのことに向かって、みんなで取り組むということが重要であります。そういう中で、チーム糸魚川の中では今年度の取り組みとしては、みんなで糸魚川応援隊の獲得運動をして、その人たちの力も借りて、糸魚川の情報発信力を少しでも高めていこうと、口コミで高めていこうという取り組みをいたしております。それが1つの手法だと思っております。

それだけでじゃあいいかというのは、議員さんがおっしゃるとおりであります。いろいろな角度から、取り組みをしていく必要があります。また、お互いのチーム糸魚川の組織団体の取り組み、活動を相互に理解し合いながら協力していく。それで外へ向かって、また情報発信をしたり、新しい物事を共同でチャレンジをしたりというところに、つなげていく必要があると思っておりますが、今後、チーム糸魚川の活動を進めていく中で、徐々に慣れてまいりますけれども、そういう取り組みを広げていきたいというふうに思っております。当然、その取り組みの中の一員は市役所の職員も、先ほど来、お話がありましたようにチーム糸魚川の一員でもありますので、そういう取り組み姿勢の中を市役所の中からもつくっていくということが大事でありますし、そういう取り組みを進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今、実務者としてどうしますかっていって、いきなり具体的な話って、なかなかできないと思うんですが、やっぱり考え方がしっかり根づいていくということが、まず大事でしょうから、いろいろな場面でやはりそれを展開していく。

今、糸魚川応援隊募集の話が出ましたが、市民一人一人が、1人の応援隊員を集めることも、4万7,000人を目標とすると言ってるんですけど、今の段階で、まだ市民のほとんど理解してないですよ。どのように市民に広げて広域に展開していくかということに尽きると思うんですけど、尽きるというか、それがまずしっかりと取り組まれないといけないと思うんですけども、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

4万7,000人の数字は、大変重い数字だろうというふうに受けとめておりますけれども、目標値として掲げたものなんです。

広報紙と、あるいはまた市のホームページというのは一般的な話でありますけれども、先ほども渡辺議員のところで少し申し上げましたように、やはり口から言葉で伝えて理解をいただくというところが、これまでの登録の中では一番多かったわけでありますので、やはり機会を捉えて口コミで、口伝えをお願いをしていく。趣旨を理解をしていただいて、登録をお願いしていくというやり方。それは会議等もありますけれども、いろんな機会を捉えながら取り組みしていくという、地道な取り組みが必要になるだろうと思っています。

もちろん市役所だけで、これをやるということではありませんけれども、構成23団体の末端までいくと、例えば組合員というような話になりますと、万単位の人数になる組織も抱えておりますけれども、そういったところで構成団体が、それぞれに今のような取り組みを少しずつでも展開することによって、すそ野が広がるというふうに思っておりますけれども、簡単にはなかなか広がらない。それは覚悟はしておりますけれども、地道に活動をしていきたい、そういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

最後に、短期・中期・長期にチーム糸魚川を考える取り組みが必要だと思っておりますね。短期が例えば来年の3月までだとすると、この1年間は、まさにチーム糸魚川が、そしてチーム市役所がチームとして機能するようにすること。簡単じゃないですけど、そういう形ができていって、そのチームで、今後、中期・長期の取り組みをしっかりと考えて、またやりながら改善していくような、本当の意味のチームワークのあるチーム糸魚川にしていくということが大事だと思います。取り組みを期待しておりますので、よろしくをお願いします。

終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後4時48分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+